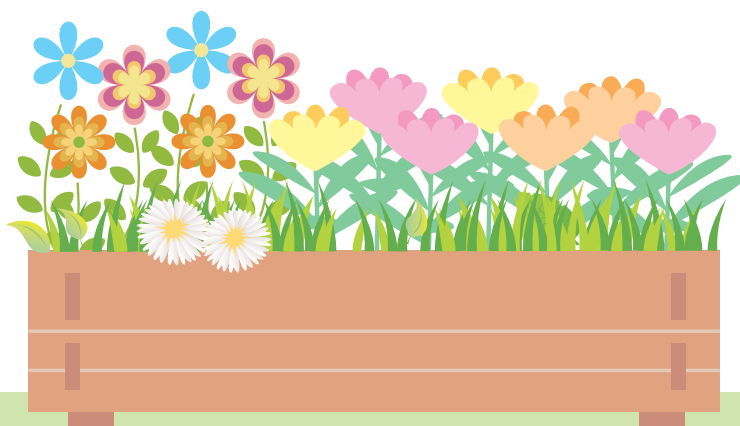




平成26年度 農林水産省 産地活性化総合対策事業
国産花きイノベーション推進事業(花育活動全国推進事業)

学校・地域活用 編

はないく 花育実践者向け マニュアル



全国花育活動推進協議会

はじめに

花や緑の多様な機能に着目し、花や緑を教育、地域の活動に取り入れる取り組みである「花育」の推進を図ることは、幼児・児童・生徒の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供しやすさや美しさを感じる情操面の向上等が図られ、また、地域活動においても、花や緑を介した世代交流により、地域のつながりを深めていくことが期待されます。

このため、全国花育活動推進協議会は、このような花育の社会的な効果や意義をふまえ、花き業界関係者、教育関係者、都市緑化関係者及び地方自治体の教育・農林・都市緑化担当部局等と連携を図りつつ、花育活動の取り組みを全国的な運動としえ推進するために平成20年3月28日に発足し、これまで、花育活動の普及啓発、モデル地区での花育活動、花育アドバイザーの登録・紹介及び花育活動に関するアンケート調査を実施してきたところであります。

本年度は、農林水産省の平成26年度農林水産省 産地活性化総合対策事業のうち国産花きイノベーション推進事業(花育活動全国推進事業)を活用し、これまでのモデル地区での花育活動の生花を生かしつつ、花き業界の専門家が創意工夫して開発・実践されてきた多様な花育活動に基づき、「花育活動実践者マニュアル」を作成しましたので、今後このマニュアルが花育アドバイザーあるいは今後花育アドバイザーを目指す方々の資質向上や研修会等、小中学校の教諭にも積極的に活用されて、全国各地での効果的な活動が展開されることを期待しております。

おわりに、このマニュアルの作成に当たり、農林水産省生産局並びに花き業界の専門家や教育関係者で構成する花育活動推進検討会及び花育活動実践者マニュアル作成委員会の委員をはじめ多くの方々にご指導及びご執筆いただきましたことに対して厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

全国花育活動推進協議会

会長 今西 英雄

「花育活動推進検討会」

順不同

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
日本ハンギングバスケット協会 理事	上田 奈美
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華浩
一般社団法人日本造園建設業協会 技術調査部長	野村 徹郎
生活科教育研究会 会長	三神 雄司
元川口短期大学 こども学科 教授	丹伊田 弓子
日本生活科・総合的学習教育学会 顧問	吉田 豊香

「花育実践者マニュアル作成小委員会」

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華浩
神奈川県小田原市立泉中学校 教頭	石塚 英雄

目次

「花と子ども」

花育活動推進検討会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田 弓子 1

①栽培

幼稚園での花壇づくり

花育体験教室「こどもたちの花壇づくり」 5

②切花

親子いけばな体験レッスン

「いけばな×コミュニケーション」 13

③切花

いけばな

学校華道「花育」の取り組み 21

④切花

親子を対象とした

小売店で行う「来店型花育」 33

⑤栽培

小学校2年生 生活科

「大切な人の為にランの花を咲かせよう」 39

⑥切花

花市場と花育アドバイザーの連携による

花育活動 51

⑦栽培

中学校技術・家庭科（技術分野）

生物育成授業「容器栽培」 67

⑧栽培

農業高校

地域と連携した花のまちづくり活動 81

「花育実践者マニュアル」一覧

専門分野	花育実践者マニュアル内容	作成者
栽培	① 幼稚園での花壇づくり 花育体験教室「こどもたちの花壇づくり」	日本ハンギングバスケット協会 愛知県支部長 伴 和彦
切花	② 親子いけばな体験レッスン 「いけばな×コミュニケーション」	一般財団法人草月会 (いけばな草月流)
	③ いけばな 学校華道「花育」の取り組み	一般財団法人池坊華道会 学校華道課
	④ 親子を対象とした 小売店で行う「来店型花育」	「みやざき花で彩る未来」推進協議会
栽培	⑤ 小学校2年生 生活科 「大切な人の為にランの花を咲かせよう」	有限会社椎名洋ラン園 椎名 輝
切花	⑥ 花市場と花育アドバイザーの連携による花育活動	花育ネットワーク協会 代 表 家城 靖子
栽培	⑦ 中学校技術・家庭科（技術分野） 生物育成授業「容器栽培」	神奈川県小田原市立泉中学校 教 頭 石塚 英雄
	⑧ 農業高校 地域と連携した花のまちづくり活動	公益財団法人全国学校農場協会 常務理事 千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭 風間 龍夫



花育活動推進検討会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田 弓子

花育を進める中で、その学び手である子どもをより良く知るということは、ふとした時に子どもの心に深くその実践のねらいを根ざすヒントを与えてくれると思います。日常の教育実践の場で子どもが見せる花と緑へのかかわりの姿をご紹介します。

その1・・・家庭での花育

2年生の男の子が、教室でこんな話をしてくれました。

「僕の誕生日、4月10日なんだ。お母さんは、僕を生む前、おばあちゃんのお家にいたの。生まれた日には、桜の花がたくさん咲いていたんだって。おばあちゃん家の桜が咲くと、僕を生みに、病院に行ったことを思い出すんだって。」

素敵なお母さんですね。お誕生日には、家の食卓に、小さな桜の枝、ガラスの器に入れた水に浮かべた桜の花が、飾られるそうです。

この子は、季節ごとに桜の木の変化を知らせてくれます。花の春、葉の茂る木陰の夏、紅葉を楽しませてくれる秋、春を待ちながらつぼみの膨らみを楽しむ冬、この子の1年は、桜とともに過ぎてゆくのです。桜が好きな男の子でした。

その2・・・保育園のお散歩から、親子での遊び場へ

「尻餅ドーン」「すべりだいみたい」公園の小さな築山？をわざと転びながら滑る男児。

「先生！これ」とシロツメクサを渡して指輪にしてもらい嬉しそうな女兒。3, 4歳でしょうか、暖かな日差しの下で一時を楽しむ保育園のお散歩風景です。ここは、都会の小さな日だまり。しかし、こんな小さな公園にも季節は間違いなくやって来ます。1年を通して度々過ごすでしょうこの公園の自然は、子どもたちにその時々野草を通して繰り返し季節を語りかけるのです。

休日には、親子でこの公園の自然を楽しむ姿が浮かびます。春は草花遊びをたっぷり楽しみましょう。同じ場所が夏には木陰で休む心地よさを 秋には虫と戯れる場所に 冬には風を追いかけて走り回る場所となって子どもと知恵比べのお相手をしてくれます。草花遊び、葉っぱの拓本、友達と一緒に「たけのこいっぽん」や「はないちもんめ」の様な遊びも楽しいですね。こんな楽しい時間の後に、帰りには、花を育てたくなくなってお花屋さんで種や苗を買って帰り、楽しみを増やしたお便りを届けてくれる保護者もいます。

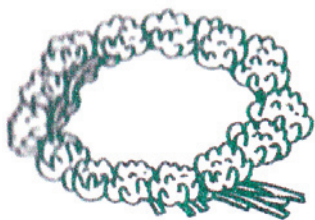
春の 草花で あそぼう



①2本をたばにして、べつの1本をつよめにまきつける。



②たばになったくきを、すこしずらしながらつぎつぎとまきつけていく。



③たくさんまきつけたら、あわせてわにする。

<とめかた>



2かしょ シロツメクサのくきを2まわりさせる。



はじめとおわりをあわせる。

【タンポポの ゆびわ】



くきにつめであなをあけ、くきをとすとできあがり

絵の出典、文章の内容は

『教科書まんがらくらく大辞典 社会や自然と私』（学研 1991）私の著書（共著）です。

その3・・・体験が生み出す感性輝く言葉

1年生と綿の種を植えました。「何色の花が咲くのかな」「白だと思う」「黄色だと思う」思い思いの考えをぶつけ合い、それが、綿を育てる意欲をそそりました。

綿のお世話をする授業の前の休み時間に、元気な光男君がやって来ました。

「先生、見つけた。僕の綿の木に花が咲いたよ。やっぱり白かった。早くみんなに見せたいよ」

授業の開始を告げるチャイムが待ちきれないようでした。チャイムが鳴ると、光男君に率いられ、なぜかみんな抜き足差し足で列になって「シー」と言いながら、綿の植木鉢を並べた裏庭に向かっていました。たったいちりん、初めて咲いた白い綿の花にみんな満足そうに静かに見入っていました。その時、光男君が、別の鉢を見つけました。「みんな、あそこに咲きたがってるのがあるよ」光男君は、綿の花のつぼみを見つけたのです。「つぼみ」のことを「咲きたがっている花」と感じたのです。花を育て、体験した子どもの言葉だなど、鳥肌が立つ思いでした。

光男君は、つぼみを「咲きたがっている花」と感じたのでしょう。日頃のようにすからは、思わぬ言葉でした。花を育てるということは、子どもの感性を育てることなんだと実感した一瞬でした。

その4・・・野外で出会った花を持ち帰って

春見つけのお散歩で、みんなの希望でタンポポを観察したりタンポポとお話したり、タンポポといろいろな遊びを楽しんだりしました。

帰りがけに、「このタンポポ、大事にするから持って帰りたい」と圭子ちゃんが、「お願い！」と言わんばかりに頼みに来ました。ざら紙を渡すと、圭子ちゃんは、喜んで大事そうに包んで持ち帰ったのです。その日は、圭子ちゃんの家が一番の家庭訪問がありました。圭子ちゃんの家で、私は、このタンポポと、感動的な再会をしたのです。母親は、恥ずかしそうに「子どもが、先生とここで話ししてというものですから。」と台所のテーブルに私を案内しました。そこには、4時間目に持ち帰ったタンポポが、少ししおれた姿で小さな瓶に生けて飾られていました。「圭子さんは、ここがお気に入りの場所なんですね。」と私がいうと、「いえ、圭子は、台所で何かしているお母さんの顔が一番優しくて好きだから、そんな私を見せたくて、ここで話してほしかったようです。だから、今日のお土産（タンポポ）もここに飾りました。』『いつものことです』と言わんばかりの淡々とした母親の話に、私は、胸がいっぱいになりました。

なんと素敵なお母さんでしょう。入学してまだ日の浅い圭子ちゃんとの触れ合いの中で、「この子のふんわりした優しさ、のんびりとした探求心」に、出会ったことのない新鮮さと不思議さを感じていた私でしたが、「この母にしてこの子あり」と、このダイニングチェアの座り心地とともにとてもいい気持ちで納得してしまいました。

自分で見つけた花だから、こんなにこだわって大好きな母親の笑顔に添えようとしたのでしょう。

花との出会いを子どもと一緒に大切にすることも花育ですね。

花育体験教室「こどもたちの花壇づくり」

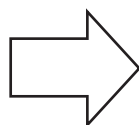
作成者：日本ハンギングバスケット協会 伴 和彦

- 対象者・人数：幼稚園児 80名
- 所要時間：2時間（体験教室）
- 対象場所：幼稚園の花壇
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名
アシスタント7名（園児10名にアシスタント1名）



花壇イメージ原本

「チョウチョのおうち」

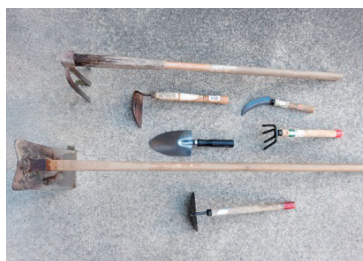


完成花壇



■ 資材

- ・クワ、レーキ等
- ・スコップ等
- ・腐葉土、苦土石灰（土壌改良用）
- ・元肥（緩効性肥料）
- ・カラーボール（花壇資材）
- ・レンガ（花壇資材）
- ・石灰（ラインひき）



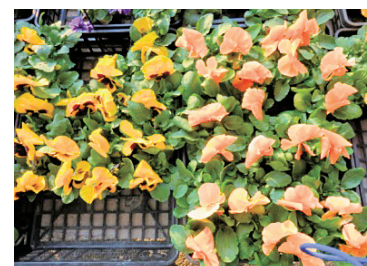
除草、土壌改良用具



レンガ



イチゴ



パンジー

■ 花材

- ・パンジー
- ・アリッサム
- ・チューリップ（球根）
- ・イチゴ



アリッサム

【指導内容と目的】

- ・花を触れることや植えることが初めての園児もいることを前提に指導を進める。
- ・植えた花の名前を憶えてもらう、花に触って植物の手触りを感じてもらう。
- ・花壇に植える時に土の感触など初めての体験をしてもらう。
- ・植物の成長を観察して、花の美しさ、香り、葉の手触りなど五感で感じてもらう。
- ・花や植物を通して園児の感動ややりがい、喜びを引き出す。
- ・花、野菜の生長を通して、育てることの素晴らしさを実感できる花壇作りを目指す。

【対象者への配慮】

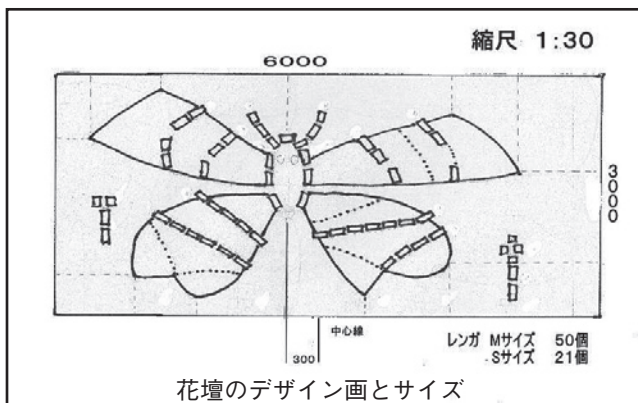
- ・野外の作業のため、天候を確認して雨の場合は日時を変更する。
- ・園児は、1か所に集合させ、花の先生の紹介、花苗の名前、性質を説明する。
- ・花壇の広さによって、植え付けをする人数を決める。人数が多い場合は、交代で植えるようにクラスごとにグループを作るなどの体制とする。
- ・植える花苗数を決め全員が平等に体験できるようにする。
- ・植える時はなるべく素手で土の感触を感じてもらいたいので、手袋着用が必要かを幼稚園に確認する。
- ・素手で植える園児のために花壇内の石や瓦礫は撤去する。
- ・花壇はスコップで植えることができるように土壌をよく耕し、安全な土壌改良を実施する。
- ・花壇内にレンガで通路を作成するなど足場を確保して花壇全体に植えることができるよう配慮する。
- ・レンガはきちっと土の中に設置し安全な通路を作る。
- ・花壇は作成後一か月過ぎると雑草や枯れた花も多くなり管理が必要となる。
- ・花壇が園児の遊び場になるよう花がらつみ、雑草とりを指導する。

■ 幼稚園側との事前打合せ

- ・花壇の設営の場所と大きさについて
- ・経費の説明
- ・具体的な花壇のデザインについて
- ・デザイン画は園児から募集するとより親しみを感じることができることも提案
- ・開始時間、終了時間の確認
- ・参加児童数の確認
- ・講師、アシスタントの人数の確認
- ・雨天時の対応、予備日の有無
- ・あらかじめグループ分けと作業順序決めを依頼
- ・実施後のアンケート調査協力を依頼

■ 講師、アシスタント花壇作成打合せ

- ・提案されたデザインのイメージを花壇として作成するためのミーティング実施
- ・花壇の面積から花材と資材の検討
- ・経費の確認
- ・役割分担の決定（花苗、資材発注など）
- ・幼稚園側との事前準備の打ち合わせ



① 事前の準備（1）

■ 花壇の土壌改良

- ・花壇をクワで掘り起し、苦土石灰・腐葉土をすきこんだ後、全体を平らにする。
- ・草、石や瓦礫を除去し危険なものがないか確認し安全な花壇に作り直す。



安全な花壇づくり

事前の準備（2）

■ 花壇のデザインづくり



「チョウチョ」の形を花壇上に描きおこす



描きおこした線の上にレンガをレイアウトする



レンガが動かないよう土の中に設置



花苗をデザインに合わせて並べていく



「チョウチョのいえ」(花苗を並べたところ)

② 当日の流れ

活動時間：(所要時間) 9:00~12:30

- ・ 幼稚園側と当日の打合せ、道具等の準備 60分 (9:00~10:00)
- ・ 体験教室全体の時間 (実施所要時間) 80分 (10:00~11:20)
- (かたづけ時間) 30分 (11:20~11:50)
- ・ 体験教室の振り返り 30分 (11:50~12:20)



園児は座って説明を聞く

■ 具体的な手順

- ・ 花壇付近の運動場に集合、今日の手順の説明
- ・ 説明会 主催者挨拶 花育の説明 講師紹介
花苗の紹介 植え方の説明



花の香りを紹介



花苗の説明

■ 花壇での具体的手順・作業のポイント

- ・ 花の名前、ポットから苗ははずす方法、植え方を手を添えて指導する。
- ・ 説明後はなるべく自主性に任せて植えてもらう。
- ・ 園児たちは植えることに集中するので、植えた苗を踏まないよう注意して見守る。
- ・ 園児が植え込んだ後の花壇を確認する。



なるべくマンツーマンで指導する



植え方の説明



手を添えてお手伝い



植える時は児童の自主性に任せる

■ 所要時間や配分

体験教室開始60分前

- ①集合・幼稚園への挨拶・打合せ
花壇・花苗・道具確認

- 10分（10分） ②・児童集合：挨拶（講師・アシスタント自己紹介）
・花苗の紹介

- 90分（80分） ③・花苗の植え付け作業
・4クラス 各20名 合計80名 1クラス20分
・花苗ポットのはずし方
・花の名前、植え方を繰り返し説明
・園児を見守る

- 120分（30分） ④・園児は教室でアンケート記入
・植え込みの確認・後片付け
・花壇の最終確認

- 140分（20分） ⑤・体験教室の振り返り
・今日の感想を聞く
・検討会の確認
・今後の管理の説明
・アンケート回収と感想まとめ

- 150分（10分） ⑥スタッフミーティング、解散

・花苗の状況確認

ポットのままの花苗や球根の植え込み忘れがないか注意して全体を確認する。



■ 植え込み後の管理の説明

- ・除草と花がらつみを順に説明する。
- ・花と雑草の違いを説明。
- ・枯れた花とこれから咲く花の説明。
- ・花がらの取り方の説明。
- ・花壇内は、レンガの上を歩くこと、花を踏まないよう指導する。
- ・花がらつみ用のバケツを用意する（10人に一個が目安）



花がらつみを説明



レンガの通路



植えた苗を踏まないようにレンガの上で作業する



花がら・雑草はバケツへ



7個のバケツがいっぱい

■ 幼稚園の取り組み・アンケートの結果（参考資料参照）

園児の感想やアンケートの結果は、今後花育活動の参考になる。

・ 幼稚園の取り組み

- ①園児たちは、完成した花壇を「チョウチョのおうち」と名付け、みんなで力を合わせて大きなボードで看板を作成。



作成から1か月後の花壇

- ②園児たちは大人が考えている以上に深く物事を知りたいという思いがある。その一環として、植えた植物（パンジー・イチゴ）の葉の形、花卉の形、付き方などをよく観察し、作品展として畳2枚程の厚紙に観察した花の形を折り紙を切り抜いて貼り付け、室内に花壇を作って、壁に掲げた。



作品展

- ③作業の様子を壁新聞のように写真を貼り、園児たちが思い思いのコメントを入れて廊下に掲げた。



壁新聞

<園児の感想とアンケート結果>

① 感想

- ・お花がいっぱい咲くといいな。
- ・お花が咲くといい気持ちになるので、もっと咲かせたい。
- ・お花が枯れたらさみしい、悲しい。
- ・虫がきてほしい。
- ・どんな虫が来るか楽しみ。
- ・花壇に蝶々が卵を産んでほしい。
- ・前のアゲハが来てほしい。
- ・（虫が）ここに来たら花が食べられるのかな。
- ・イチゴがなったらみんなで食べたい。
- ・イチゴおいしいかな。
- ・お家でも花の植え付けをやってみたい。
- ・土が固かった。土が柔らかかった。
- ・いろいろな形の花壇を作って幼稚園を可愛くしたい。
- ・雨や雪が降ったらどうなるのかな。
- ・色がたくさんあってきれいだった。
- ・家族にも見せたい。
- ・蝶の形の花壇、目がボールになっているのが面白かった。

② アンケート（園児80名）

① お花は好きですか。	はい（73名）	いいえ（7名）
② 名前をしていますか。	はい（78名）	いいえ（2名）
③ 園で花を育てたことがありますか。	はい（80名）	いいえ（0名）
④ 花のお世話をしたことがありますか。	はい（80名）	いいえ（0名）
⑤ 参加して楽しかったですか。	はい（77名）	いいえ（3名）
⑥ うまく植え込みできましたか。	はい（80名）	いいえ（0名）
⑦ また参加したいですか。	はい（80名）	いいえ（0名）
⑧ やさしい気持ちになりましたか。	はい（80名）	いいえ（0名）

※参加して楽しくなかった児童の理由

- （作業で）手に土がついたから 2名
- （作業が）たくさんあったから 1名

親子いけばな体験レッスン「いけばな×コミュニケーション」

作成者：一般財団法人草月会（いけばな草月流）

- 対象者・人数：親子10組 20名（幼稚園児～小学生）
- 所要時間：90分程度
- 対象場所：学校、公共施設など
- 指導者：いけばな講師1名、アシスタント3名

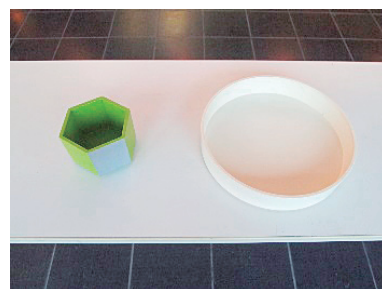


■ 道具

- ・花ばさみ（子ども用・大人用）
- ・花器（子ども用・大人用）
- ・剣山
- ・剣山マット
（なければ新聞紙で代用）
- ・水切り用のボール
- ・ピッチャー
- ・新聞紙
- ・雑巾
- ・包装紙、ひも（持ち帰り用）



花ばさみ（子ども用・大人用）



花器（子ども用・大人用）



剣山

■ 配布資料

- ・いけばなの歴史、基礎知識を簡単にまとめたプリント

■ 花材（春の例）

- | | | |
|------------|-------------------------|-------|
| ・葉もの（子ども用） | はらん・モンステラ・ニューサイラン・たにわたり | など1種類 |
| ・枝もの（大人用） | さくら・れんぎょう・もも・きばなでまり | 〃 |
| ・花（子ども用） | ガーベラ・スイートピー・チューリップ・なのはな | 〃 |
| ・花（大人用） | ばら・スイートピー・アネモネ・きんぎょそう | 〃 |



【指導の目的】

○いけばなで心を伝える

「花はいけたら、人になる」という言葉があります。
 いけばなには、いける人の心がそのままあらわれるということです。
 大切な人をおもてなしするために、
 大好きな人に想いを伝えるために、
 哀悼の気持ちを表現するために、
 命ある植物にふれ、その尊さを感じ取りながら、私たちは自分の心を花に託して表現してきました。
 日本が古来より豊かな自然の中で育んできたこの繊細な感受性を、末永く未来に伝えていく
 ために、親子がともに花をいけ、その楽しさ、すばらしさを実感してもらいたいと考えます。

○花を介したコミュニケーション

花をいける行為は誰かに何かを伝えるというコミュニケーションの手段でもあります。
 家庭に飾られた花は、暮らしに潤いをもたらし、家族の会話のきっかけにもなります。
 花を介して、親が子どもに、子どもが親に感想や想いを伝え合い、感動を共有する。い
 けばなを通して、花で自分のおもいを表現する喜び、コミュニケーションを取る楽し
 さ、命ある植物に寄り添う感動を体験してもらいたいと思います。

【対象者への配慮】

リラックス・集中できる環境づくり

- ・初めていけばなを経験する人がほとんどなので、緊張をほぐすように心がけ、講師やアシスタントが積極的に声掛けし、気軽に質問しやすい雰囲気を作る。
- ・待ち時間にBGMを流すなどリラックスできる環境づくりを工夫する。

けがや事故がないよう配慮する

- ・道具の扱い方や花材の説明はなるべくゆっくりとていねいに行う。
- ・花材は硬くて切り難いものや、子ども用にはとげのあるもの、匂いの強いものは避ける

全員が平等に

- ・一部の参加者だけにかかりきりにならないように参加者全体に目を配る。
- ・講師の説明やデモンストレーションがどの席からも見やすいように教室をレイアウトする。
- ・教室が広い場合は後ろまで声が届くように意識するかマイクを使用する。

空間的なゆとりの確保

- ・ゆとりを持ってのびのびといけられるように一人ずつのスペースを十分にとり、可能なら出来上がった作品を少し下がって見られるように机を配置する。

名札の着用

- ・講師、アシスタントは名札を着用する。可能なら参加者にも名札を着けてもらい（子どもは下の名前）、名前を呼びかけながら指導できるようにする。



■ 事前の準備

【会場となる施設、備品の確認】

- ・教室の広さ、イスや机の高さ、大きさ、個数が参加者の人数や年齢層にふさわしいかを確認する。
- ・水場、ゴミの廃棄方法の確認（近くに水場があることが望ましいが、ない場合は汲み置きを用意する）

【参加者名簿、名札の作成】

- ・可能なら子どもの年齢を事前に確認し、年齢層にばらつきのある場合は、進行に十分配慮する。

【講師とアシスタントとのミーティング】

- ・参加者の情報を共有する。
- ・スケジュールを確認し、道具の使い方・花材の知識・見本花のデモンストレーションの内容を検討する。

【道具類の準備、花材の発注】

- ・急な変更やアクシデントに備えて、可能なら予備も用意する。

■ 当日の準備

- ・机、イスなどのセッティング。
- ・道具類、花材の確認・セッティング。
- ・見本花のデモンストレーションの準備。
- ・受付の準備。



机、イス、道具類のセッティング

■ タイムスケジュール

- 受付
↓
あいさつ、スケジュール説明 (5分)
↓
見本花デモンストレーション (15分)
↓
子どもの作品づくり (20分)
↓
大人の作品づくり (20分)
↓
作品講評 (15分)
↓
総評 (5分)
↓
片付け (10分)
↓
終了
(後片付け)



見本花デモンストレーション

■ 当日のプログラム

- 1 受付
名前を確認し、名札を渡す。親子で並びの机に着席してもらう。
花器、剣山、はさみ、資料用プリント、雑巾はあらかじめ机にセットしておく。
- 2 あいさつ
講師、アシスタントの紹介。
- 3 簡単な趣旨説明とタイムスケジュールの説明
- 4 いけばなとは？
いけばなに用いる道具類の説明。
いけばなの基本的な技術の説明。
 - ・はさみの使い方
 - ・枝の切り方、草ものの切り方
 - ・花器の扱い方
 - ・剣山の使い方
 - ・水切りについて など



講師、アシスタントの紹介

5 講師による見本花のデモンストレーション（4の説明と平行しておこなっても良い）

①子ども用の花器と花材を使用して

葉ものと花…葉ものは手で裂いたり丸めたりして、自分なりの形表情を作ることができることを示す。



②大人用の花器と花材を使用して

枝ものと花…枝ものをためる方法など。

③自由花（いけばなの魅力を伝えるため、高度な技術や様々な花材を用いた作品）

6 花材の配布…可能なら数種類の中から選んでもらうようにする。

7 植物をよく見つめ（かたち・色・手触り・匂いなど）、その植物の魅力を探す。

8 花材の萎れているものなどを整理する。

9 子どもの作品づくり（親は子を見守り、集中をとぎらせることのないように注意する）

10 大人の作品づくり（子どもは葉を取る、水をさすなどの簡単な作業を手伝う）



子どもの作品づくり



大人の作品づくり



講師による講評

11 いけ終わったら、作品のまわりを片付け整える。

12 完成した組から、講師が1作ずつ講評する。

講師が一方向的に話すのではなく、参加者の感想や質問などを引き出し、親子でも感想を伝え合うように促す。

13 講師より総評

参加者数名に感想を伺う。

- 14 アシスタントより、片付けの説明（道具のしまい方、花の包み方など）
片付け、終了
- 15 スタッフによる後片付け（備品、道具などの片付け、ごみの処理、掃除）

■ 指導上のポイント

○自由な発想を大切に

体験レッスンでは「花をいけるのはたのしいこと」と感じてもらうことを最優先にする。決まりごとにとらわれすぎず、特に子どもたちがのびのびと自由な発想でとりくめるように配慮する。大人には理論を求める人もいるので、臨機応変に型や規則などの説明を補足するなどの対応も必要である。

○良いところを見つける

大人でも子どもでも、ほめられることでやる気がでるもの。まず良いところ、すてきなところを見つけて声掛けする。

○親が子どもに干渉しないように注意する

子どもの自主性を育むために、親が子どもの作品に干渉しないように注意し、目に余るケースはやんわりと声がけする。

○視線を子どもに合わせる

子どもを指導する時は、一人ひとり向き合うようにして名前呼びかけ、視線を子どもに合わせて指導する。

○子どもが考えたことを言葉にできるように、子どもには一番好きなおもしろいところ、なぜこうしたかったかをたずねる。この花のどこに惹かれ、何を一番みせたかったのか。その子なりに考えたことを言葉にしてもらう。花をいけることは、自分を表現する術であることを実感してもらう。

○大人には日々実践できる花の知識を伝える

大人には暮らしの中で手軽に実践できる花の飾り方やコツ（花束をいけ直すテクニック、食器など身の回りのものを器に利用することなど）をデモンストレーションや指導の際に伝え、家庭に花を取り入れるきっかけにしてもらう。



講師による総評



■ いけばな体験レッスン

生活環境が変わり、従来いけばなが飾られていた床の間が住まいから姿を消しつつある現代は、言い方を変えれば、いけばなが床の間から開放され、どこにでもいけばなが存在できる時代になったとも言えるのではないのでしょうか。

いけばながより身近な存在となって、植物に触れる機会を増やすことは、子どもの感性を培う契機となり、家庭内のコミュニケーションを円滑にする役割を果たすことにもつながります。

日本に脈々と受け継がれてきた伝統文化・いけばなは、グローバル化する現代にこそ日本人が日本人であるために身につけるべき大切な教養ではないのでしょうか。

親子いけばな体験レッスンが、いけばなを知り、学ぶきっかけとなることを願っています。

学校華道「花育」の取り組み

作成者：一般財団法人 池坊華道会 学校華道課

■ 学校華道とは…

最近の調査では、小学生から高校生までの子を持つ親の六割が「我が子に足りない物」として思いやりや愛情、命を大切にできる心を挙げました。また小学生の七割が、「人は死んでも生き返る」と答えた結果が大きく報道されています。生きている植物に触れるいけばなでは、水をかえ、大切にしたら長く美しく咲いていること、また放っておけばすぐに枯れてしまうという、命の重みを実感できます。いけばなを通し、歴史や文化を味わい楽しむことはもちろん、命の重みや思いやり、また自然を愛でる心や環境保護への意識を高めることができます。花による心の教育は「花育」と名付けられ、華道家元池坊でも、「学校」という教育の場で伝統文化「いけばな」を学ぶことが、現代の日本に必要な人間形成に意味を持つと考えています。



第17回学校華道インターネット花展
いけばな池坊最優秀賞

■ 取り組み例

- ①学校華道実習（概要）
- ②学校華道実習校へのサポート（華道具助成・講師派遣・実施のノウハウの提供など）
- ③文化庁委嘱事業 伝統文化親子教室の実施
- ④Ikenobo花の甲子園
- ⑤学校華道インターネット花展
- ⑥修学旅行・課外活動の六角堂・いけばな資料館の見学といけばな体験
- ⑦教育委員会への協力・研修の実施



Ikenobo花の甲子園
地区大会 ミニチュア作品



学生花展 出瓶作品



伝統文化親子教室
作品

①学校華道実習（概要）

幼稚園から大学院までの登録した約1,850校を対象に、地域コミュニティに密着した教授者を紹介・派遣し、学校華道実習校に取り組んでいます。

授業や部活動はもちろん、1回の体験授業、講演会形式で講義とデモンストレーションを見学するなど様々な形式で実施しています。



取り組みの様子

■ 当日の指導の流れ

1 講義

テキスト・プリントを配布

- ・初めての場合は、いけばなの歴史や考え方に触れる
- ・講義テーマについて ・飾る環境の話
- ・季節感の話 ・使用花材について など



2 デモンストレーション

実際、生徒がいける花材と同じものを用いて、いける際のポイント、花材の使い方（切り方、ため方、特徴のいかし方）などを解説しながら、デモンストレーションを行ないます。

実技をせず、講師のデモンストレーションの見学のみの場合もあります。その際は、普段、実技では取り組めない古典的な花形である立花（りっか）などを学習することも出来ます。



3 実技

いけ終えた生徒から一人一人、講師がアドバイス行ないます。

作品に込めた思いや表現について、生徒とコミュニケーションを取りながら、行ないます。



4 作品完成後、スケッチ（鑑賞会）

スケッチシートを用意し、いけた作品をスケッチし、感想を記入。また、お互いの作品を鑑賞する時間を設けています。



5 まとめ

（補足）いけられた花は、教室、校長室や玄関などに展示。入学式・オープンスクール・文化祭・卒業式など学校行事に併せて授業を実施することもできます。



■ 指導上のポイント

全体のポイント

- ・いけばなは「日本の伝統文化」であることを知ってもらう。
- ・実技（体験）をすることにより、花や植物を身近に感じてもらう。

実習のポイント

- ・大切なのは「楽しい」と感じてもらうこと。
- ・自分らしさを引き出す。

<実習の授業テクニック>

- ・デモンストレーションを参考に自由にいける。
- ・全員同時進行で実習する。
- ・主の花材だけを指示し、あとは自由にいける。

手直しのポイント

- ・まず良いところを褒めること。
- ・あまり直し過ぎないこと。
- ・手直しを加えた際の変化を共有すること。
- ・生徒とのコミュニケーションを大切にすること。

<手直しの授業テクニック>

- ・時間や人数を考慮し、手直しを進める。
- ・いけている生徒にも合間を見て、アドバイスをする。

作品完成後のポイント

- ・花や植物をいける楽しさを確認し合う。
- ・人に鑑賞される楽しさを味わう。

<作品完成後の授業テクニック>

- ・生徒は、スケッチシートを提出し、後日講師がコメントを添えて返却する。
- ・いけた作品に込めた思いや表現を代表者に発表してもらう。

②学校華道実習校へのサポート（華道具助成・講師派遣・実施のノウハウの提供など）

・華道具などの助成

学びやすい環境を整えることを目的に、学校華道実習校へ花器・剣山を贈呈しています。その他、取り組みの中で、ご使用いただく教材パンフレットの提供、映像教材の無料貸出なども行ない、学びやすい環境を整えています。



助成している華道具



教材パンフレット・映像教材

・講師派遣

全国の支部から地域コミュニティーに密着した指導者を紹介し、派遣しています。



講師による指導の様子

・実施ノウハウの提供

学校華道実習校からは、どのような活動を行なったか、また良かった点・改善点などを活動報告書にてご提出いただき、情報を集約しています。それらの蓄積された情報を基に、どのような内容・形態で実施していくのか、授業カリキュラムや活動内容などの提案に生かしています。

学校華道カリキュラム

実施月	講義	指導テーマ	指導内容
4月 (入学式)	初めてのいけばな (デモンストレーション) 花、花器を用意	楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・会話を対象とする こんにちはーさようなら (大きな声で) お願いしますーありがとうございました (はっきりと) ほめ言葉で言うーきれいですね。上手ですね。 ・花材を用意ー少ない花材で ・花器は身近なもの ・ハサミ、持ち物の説明
5月 (子供の日) (母の日)	草木の生きる力	生命感	<ul style="list-style-type: none"> ・美しさを保つには 水の必要性ー水揚げ方法ー水切り 自然の力ー導管の働き ・花器は中の良く見えるものが良い ・家でいける習慣を育てる
6月 (父の日)	いけばなのバランス	バランス	<ul style="list-style-type: none"> ・長短、大小、明暗 ・オアシスの使い方ー広口の花器 ・曲げる、ためる ・花器ーバランスをとるには口の小さい花器が使いやすい
7月 (七夕)	季節と遊ぼう	季節感	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花ー代表的な花の名前 ・季節の移りー日本の四季 ・季節と花器ーガラス、かご等
8月	季節と遊ぼう	植物と遊ぶ おしばな レリーフ	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの自由研究ーおしばな、レリーフ ・手作りの楽しさ ・おしばなのおもしろさ ・おしばなの作り方ー道具の使い方 ・レリーフの作り方 ・生の花ー輸入れる
9月 (重陽の節句)	伸びのびと、 いけよう	花留め	<ul style="list-style-type: none"> ・花留めの道具ー剣山、小石、吸水性スポンジ、ビー玉、針金 ・伸びのびといけるー長い花、大きい花 ・理科の「てこの原理」の例 ・広口の花器の使い方 ・細口の花器の使い方
10月	育てた花をいけよう	家で咲いた花	<ul style="list-style-type: none"> ・家の花を利用 (ガーデニングの花) ・短い花の利用方法 (吸水性スポンジ使用、花器ーかご、コップ等) ・稽古で使用した花などの再利用法ー水切りをしっかりと ・身近な花器ー2個使いの方法
11月	モビールを 作ってみよう	工夫と いけばな	<ul style="list-style-type: none"> ・作る楽しさ、夢があること ・自由な発想 ・つり合いーやじろべい、てんびんの応用 ・道具 (ハンガー、針金、プラスチックケース等) ・落ち葉、枯れ枝使用
12月 (クリスマス)	色々な葉を使って	表現する 楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だけの物語を作るー表現力 ・造形ー葉の切り方、葉の生かし方 ・作る楽しさを第一とする ・素晴らしさをほめる ・楽しい花器を使って
1月 (お正月)	暮らしといけばな	伝統と花	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしと行事 伝統的行事 (1月1日、3月3日、5月5日、7月7日、9月9日) 国民的行事 (母の日、クリスマス、誕生日) ・好きな花を使う
2月	いけばなで ありがとう	感謝の心	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の言葉ーありがとう、嬉しいです、楽しいです ・出会い、ふれ合い、花を通じた表現 ・送る花 ・楽しく心を込めていける
3月	いけばなの歩み	伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> ・発祥 ・床の間にいけられた ・立花、生花ー室町時代 ・六角堂

③文化庁委嘱事業 伝統文化親子教室の実施

学校華道実習校と併せて、文化庁委嘱事業 伝統文化親子教室にも取り組んでいます。学校という教育の場以外にも、次世代のこどもたちが伝統文化“いけばな”に触れる機会を作るために全国各地で実施しています。



伝統文化こども教室 実施の様子

④Ikenobo花の甲子園 ～高校生によるいけばな公開コンクール～

・趣旨

文化系の生徒が活躍の場を見出し、地域の代表として、いけばな発祥の地、京都・六角堂で花をいける喜びを感じ、日本の伝統文化・いけばなへの学びを誇りに思うことを目的に開催しています。

・概要

高等学校で池坊いけばなを学ぶ生徒三人が一チームとなり、制限時間45分制作した作品を発表する公開コンクールです。毎年7月末までエントリーを受付、8月から10月にかけて、全国各地で地区大会を開催。地区大会で代表となった高等学校を全国大会へ招待しています。全国大会は、いけばな発祥の地 京都・池坊で同時期に開催される最大・最古の池坊旧七夕会全国華道展内で開催。各地区の代表が“いけばな 高校生 日本一”の座をかけて、全国大会に臨みます。当大会は2009年から始まり、今年で7回目の開催となります。



いけばなに青春をかけ、真剣に取り組む高校生の輝く姿、斬新な形態が話題を呼び、年々出場校も増え、昨年（2014年）大会には、過去最多の118校が出場し、全国大会の結果、最優秀校には秋田県立横手城南高等学校が選ばれました。

・地区大会

地区大会は、全て公開形式で行っており制限時間45分以内に3種類の花器に1人1作をいけこみ、その後、持ち時間3分30秒で作品解説を行います。また、当日使用する花材は当日まで非公開。加えて、地元の花材を1種類持ち込むことができます。また、指定された3つの花器のうち、ミニチュア花器も各校で持参します。どんな花材を持ち込むか、ミニチュア花器に何をを用いるかもアイデアが問われます。

そして、審査は、池坊関係者だけでなく、地元の教育委員会やメディア関係者によって行われており、いけばな作品としての優劣だけでなく、高校生らしい若々しくフレッシュな発想や、3人1組のチームワーク、パフォーマンスやプレゼンテーション力などの観点も審査対象です。また同時に観客投票や出場者の相互投票も実施し、その結果も審査に加味し、それらの総合得点が最も高かった学校が地区代表校として全国大会行きの切符を得ます。



地区大会 いけこみの様子



地区大会 会場の様子

・全国大会

出場者たちは、同時期に開催されている最大・最古の池坊旧七夕会全国華道展を見学したり、全国から集った出場者の交流を深める親睦会などを行ないます。ライバルでもあり、お花を通じた「仲間」であるということを感じつつ、全国大会への士気を高め合います。

そして、全国大会当日は、野球の甲子園さながらプラカードを持っての入場行進で開会。全国大会は2部形式で開催し、まず1部では全国大会行きを掴んだ地区大会と同じ、「審査課題」に取り組み、2部に進出できる3校を選考します。



全国大会 1部の様子

2部では、花ばさみをバトン代わりにし、リレー形式にて3人で制限時間30分以内に1作合作をいけます。3人のセンスとチームワークを結集し、いけこみます。花包みを開いて初めて知る花材をどのようにいけるか、作品が出来上がっていく様子にハラハラ・ドキドキの連続です。いけ終わった後は、作品解説を行ないます。この中から最優秀校が決まります。



全国大会 2部の様子



全国大会出場者 集合写真



2014年大会 最優秀校
秋田県立横手城南高校の皆さん

当大会を通して、高校生の華道にける熱い気持ち・姿勢が伝わってきます。
事業趣旨の達成はもちろん、高校生が出場を通して感じたこと・経験したことで、華道や花に親しむ気持ちを育むことを願っています。

⑤学校華道インターネット花展

・趣旨

「Ikenobo花の甲子園」同様に、日頃のお稽古の成果の発表の場になること。また入賞を目指し、目標を持って、華道に取り組めるようになることを目的としています。

・概要

学校華道インターネット花展は、学校華道実習校の生徒だけでなく、伝統文化こども教室や個人教室で池坊いけばなを学ぶ児童・生徒・学生であれば、活動形態に関係なく、誰でも応募することができます。全応募作品は、池坊ホームページ上で展示をします。
また、全応募作品の中から、個人賞32、団体賞3の表彰も行なっています。



第17回 文部科学大臣賞 作品



インターネット上の表示イメージ

⑥修学旅行・課外活動の六角堂・いけばな資料館の見学といけばな体験

学校華道では、修学旅行・課外活動で京都を訪れた生徒たちに六角堂・いけばな資料館の見学、いけばな体験を行っています。

京都・六角堂で朝夕の仏前供花から発祥した“華道”。

六角堂の建立と華道の関わりについての解説を聞き、いけばな専門の資料館の見学をします。歴史や文化の知識を深めた後に実際に花をいける体験をしています。（見学のみの場合もあり）

班行動はもちろん、クラス・学校単位での受け入れもし、年間を通じての参加があります。

多くの方々にお越しいただき、“いけばな”を体感していただくきっかけ作りを行っています。



六角堂 見学の様子



いけばな体験の様子

⑦教育委員会への協力・研修の実施

京都府・京都市の教職員を対象とした研修を実施しています。

当研修は、まずは教職員の皆さんが伝統文化“華道”をきちんと体得し、生徒たちに還元するために、教職員自らが学び、講義と実技を通して、教育の場でいけばなが果たす役割を考え、実践に導く貴重な機会となっています。

また、国際化に伴い、京都府では「歴史・伝統・文化」の英語マルチメディアテキストとして、華道を取り上げ、英語で華道を学ぶ取り組みも実践されています。その他、ALT（外国語指導助手）への研修なども実施しています。

また、京都府（市）の例をもとに、学校という「教育」の場で「花育」が行われるよう各地の教育委員会との連携強化に取り組んでいます。



京都市教職員研修の様子

親子を対象とした小売店で行う「来店型花育」

作成者：「みやざき花で彩る未来」推進協議会

- 対象者・人数：親子対象 333組（H25年度実績）
- 所要時間：※店舗での実施内容により異なる
- 対象場所：小売店 店舗内（もしくは最寄りの公民館等）
- 指導者・アシスタント人数：小売店スタッフ 1，2名程度



「みやざき花で彩る未来」推進協議会は、「みやざきの花」普及促進協議会を引き継ぎ、平成20年に発足。県内花き消費拡大のための活動を展開し、県民に花を通じた安らぎと潤いのある生活を推進するとともに、高品質でオリジナル性の高い県産花きのPR等、県産花きの生産に資することを目的としている。協議会のメンバーは、宮崎県卸売市場連絡協議会、宮崎県生花商組合連合会、宮崎県花き生産者連合会、宮崎県JA花き協議会、宮崎県JA宮崎経済連、宮崎県で構成している。

協議会では、平成23年度から、みやざき「花の日」毎月7、8日に県内の加盟小売店で、親子を対象とした「来店型花育」に取り組んでいる。

「来店型花育」とは、学校等に出向いて大人数を対象に行う従来の「花育（出前型花育）」とは異なり、小売店舗内で少人数を対象に実施する。

小売店に足を運ぶきっかけ作りになることや、親子で体験することで、その後の家庭内での話題作りにも貢献している。

【指導内容と目的】

○指導内容

- ・親子で1つの作品を協力しながら作ってもらう。
- ・テーマを決め、それに沿った内容のアレンジメントを作成する。
- ・花材に宮崎県産の花を使用することで、県産花きのPRにもつながる。
- ・子どもだけでなく、親子を対象とすることで、直近の購買層（親世代）と将来的な購買層（子世代）への働きかけができる。

1 全体計画・スケジュール及び事前準備

出前型花育の全体計画は、「みやざき花で彩る未来」推進協議会事務局が行っている。

①年度当初に、来店型花育に取り組む店舗の要望を取りまとめる。

実施する時期、回数、人数等について調査。

※要望が多い場合は調整する。

②年間実施計画ができれば、新聞広告で定期的に案内を行う。

③実施する曜日や時間なども、店舗の実情に応じてそれぞれで異なるため、新聞広告には参加店舗の連絡先が記載されている。

④来店型花育終了後は、アンケートの実施と報告書の提出を行う。



2 実施内容の詳細(平成25年2月の実施例)

店舗名	実施日	曜日	開始時間	参加組	花育内容	使用花材
A店	2月17日	日	13:00	3	スイートピーを使った「春のアレンジ」	スイートピー（ファーストレディー・エンジェル）、カーネーション（フロリダ）、チューリップ
B店	2月16日 2月17日	土 日	14:00	2	スイートピーを使った「春のアレンジ」	スイートピー4色（赤・白・ピンク・紫）、Sカーネーション（グリーン）、チューリップ（ピンク）、かすみ草
C店	2月2日	土	10:30	2	スイートピーを使った「春のアレンジ」	スイートピー4種×6本、ゼンマイ、菜の花、スプレーバラ、スマイラックス
D店	2月24日	日	13:00	12	スイートピーを使ったアレンジ	スイートピー、ガーベラ、アスパラナガス、パセリ苗
E店	2月20日	水	17:00	5	スイートピーを使った、お雛様アレンジ	スイートピー、ソリダゴなど
F店	2月17日	日	10:30	10	スイートピーを使った「春のアレンジ」	スイートピー、チューリップ、桃、菜の花、レザーファン
G店	2月24日	日	16:00	6	スイートピーを使った春のお花たち	スイートピー、チューリップ、ガーベラ、ヒペリカム

- ・日時、参加人数は店舗により異なる。
- ・テーマは「スイートピーを使ったアレンジ」が多かった。
- ・資材や花材は店舗ごとに工夫を凝らしている

3 当日の流れ

クリスマス为主题にアレンジメントを作成した事例（親子7組が参加）

① 開始前の風景

店舗内のスペースに準備された花材。

教室の机が置いてある場所は普段は商品が陳列されている場所。

早く来店した子どもたちは早くやりたくて仕方がない様子。



【花材】

ヒバ・ガーベラ・カーネーション

サンキライ・ヒペリカム・リンゴなど。

※十分なスペースが無い店舗は、隣接する公民館等で実施する場合がある。

② スタッフによる説明

わかりやすいように丁寧に道具の使い方や作り方を説明する。

子ども達も真剣に説明を聞いている。

このとき、使用する花の名前や産地などの説明もあると良い。



③ 黙々と取り組む姿

子供達も真剣に作業に取り組んでいる。

それぞれの感性、アイデアで様々なアレンジを行っていた。



④ 完成作品

クリスマス为主题に、キャンドルを活かしたアレンジの完成。



完成した子どもたちに
店舗オリジナルの賞状を贈る

■ 実施する上での課題

- ・リピーターが多く、消費者が店舗に足を運ぶ回数は増えているが、新規の来店者を確保するための工夫が必要である。
- ・店舗の広さや、スタッフの数が少ない（夫婦のみで経営している場合）など、積極的に取り組めない店舗がある。

■ 改善点等

- ・複数回参加しているリピーターは参加費を負担してもらうなど、新規の枠を広げる工夫をする。
- ・来店型花育に取り組めない店舗は、出前型花育で対応する。
- ・来店型花育をきっかけに、購買を目的として来店する消費者が増えてきている。

■ 参加者からの感想

来店型花育の実施後には、実施店舗からの報告書の提出と、参加者に対してアンケートを実施している。

（以下、その報告書とアンケートの内容から抜粋）

【報告書：実施店舗の感想】

- ・宮崎の花をアピールするためにスイートピーの花束のプレゼントを行いました。小さい子供には少し難しかったようです。反省
- ・今回も大変喜んでいただけました。無料というので参加しやすいのがありますね！前回参加された方は、花壇をわざわざ作られて苗を買いに来られました。「花育」に効果がありました。
- ・「花育」でアレンジ教室は初の実施でした。親子は1組でしたが、とても喜んでくれました。次回からの花育でも積極的に呼び込んで、どんどん参加して下さる方が増えるといいです。
- ・「かわいい！」「パパにあげよう！」と出来上がりを見てみなさん満足気でした。次回も参加したいと言っています。男性の参加を促せるテーマがあると、もっと幅が広がると思います。
- ・今回は4組の親子が参加してくださいました。それぞれ自由な感じでアレンジメントを作成していただきました。親子で花を触れ合いながら楽しい時間を過ごせたと思います。是非次回も参加したいとの声をいただきました。
- ・すごく喜んでいただけました。花育のPRが弱く、参加人数が少なかった。これからはもう少しPR（チラシなど作り）など強化していきます。

- ・手軽にできることもあって、大変喜ばれました。常連さんが複数いて、うれしいことではありますが新しい人々を取り入れる努力をしていかなければと思っております。
 - ・今回は女の子が多かったので3/3がひな祭りということもあり、日南産のスイートピーを使って、桃の節句のアレンジを作りました。時間的には30~40分で皆さん完成されました。楽しそうに作ってくれて、本当に良かったです。
 - ・今回のレッスンの対象者はほとんどが小学生で女の子でした。前回までのレッスンから、今回も春にちなんで「てんとう虫」のピックをアレンジに加えたところ、子どもたちにとっても好評でした。子どもたちだけでなく親御さんも一緒に楽しみながらアレンジ造りに取り組んでいる様子がみられました。今回の参加者は以前もフラワーアレンジに参加した方が多く、また、お店出していた広告を見て申し込まれた方が多かったようです。次回も参加したいと考えている方が多くみられました。
- 親子で花に触れることが良い体験になると考えている方が多く、花育でフラワーアレンジメントを定期的実施することで、花の種類や形に興味を持つ良いきっかけになっていると考えられます。少しずつではありますが、花への魅力を伝えられているのではないかと思います。また、参加申し込み状況を見ても、花育の情報も広まっていると実感することができます。今後も花育を通して、花について知り触れ合うことの大切さを伝えられるようなアレンジレッスンをしていきたいと考えます。それと同時に、もっと多くの方に花育を認知してもらうため、告知の方法も考えていきたいと思います。

【アンケート：参加者の感想】

- ・男の子ですが、とても楽しめました。「また参加したい」と終わるころには話していました。お花はやっぱりいいですね、ありがとうございました。（43歳女性、8歳男児）
- ・親子で2回目でしたが、早速家でもまねて作りました。とてもよい体験をさせていただきありがとうございました。（41歳女性、7歳女児）
- ・庭に植える花のレッスンを希望します。街全体が花であふれた町づくり出来たらいいですね！（36歳女性、5歳女児）
- ・生花をなかなか購入することもなく、こうしてアレンジを指導してもらおうと、今度は自分で購入して挑戦してみようと思います。（35歳女性、5歳女児）
- ・花屋さんに来る機会もフラワーアレンジメントする機会もないので、もっとこういう機会があ

るといいなと思いました。子供も親もたのしかったです。ありがとうございました。（28歳・29歳夫妻、5歳男児、3歳女児）

□ 親子でお花に触れることの大切さ

・花の魅力親子で感じながら、会話をしながら作品を完成させていく過程は「なごやかであり、親しみのある時間」となります。

また、花屋さん側も「花のある生活」の魅力を確認できる良い機会となっています。

- ・親子の会話を聞きながら、ほほえましい時間が過ぎていきます。
- ・おとうさんの参加も目立ちます。



・屋外でのコンテナガーデニング。

このあと家でも「花壇を作りました」との声を聞きました。

小学校 2年生生活科「大切な人の為にランの花を咲かせよう」

作成者：有限会社椎名洋ラン園 椎名 輝

- 対象者・人数：小学校2年生 2クラス 38名
- 所要時間：生活科 1時限（45分）
- 対象場所：小学校、中学校、高校、大学
- 指導者・アシスタント人数：
1クラス講師1名、アシスタント1名

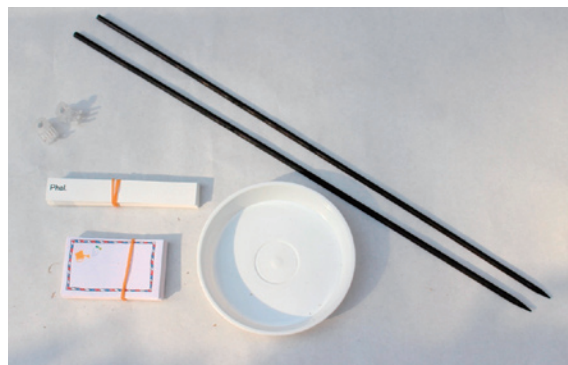


実践概要

教室内で花芽付きコチョウランを育て、開花したコチョウランを自分の大切な人の為のプレゼントとして持ち帰る花育である。「大切な人の為に花を咲かせるカリキュラム」として、理科の実験ではなく、心の教養を育む道德、生活の授業として児童、生徒に取り組んで貰う。大切な人の為に、という明確な目的を意識する事により、花の持つ魅力と、相手への思いやりを育む事が主な目的である。

■ 資材 <1回目>

- ・支柱（30cm程度）
- ・クリップ（支柱とランの花芽を留める）
- ・植物の名札（花に名前を付ける）
- ・鉢皿



<2回目>

- ・メッセージカード
- ・リボン
- ・持ち帰り用の箱

- 花材 ・コチョウラン4号鉢 1鉢
(花芽が2本ついた苗)



【指導内容と目的】

「大切な人の為に花を咲かせるカリキュラム」として、大切な人（受け取り手）の事を考えながらコチョウランを育て、受け取った時の相手の反応、笑顔を感じて貰う事を第一の目的としております。花生産者の仕事、又、他の職業の方々にも通じる事ですが、自分の成した事によって相手が笑顔になると云う事は、やりがいのある報酬であり、花を用いる事によって、人と人との心の繋がりを感じて貰う事を、第一の目的としております。

本来育てるのが難しいといわれるコチョウランを用いて、花を咲かせることにより、植物に対しての興味、自信にも繋がり、他の植物へ興味の広がりも期待できる事や、教室内で育てる事により、植物の成長を身近に感じて貰う事も大切な目的となります。

指導内容としては、大切な人の為に花を咲かせるという明確な目的意識を持って貰い、自分の為だけではなく、大切な人の為に花を咲かせる意味を考える事に尽きます。

実施した小学校の先生が本件花育に取り組むにあたり、大切な目的を伝えておられました。「お母さんからの命の繋がりをいただいて皆さんがここにあります。このお花に愛情を注いで命を育ててくれたお礼として育てていきましょう」。

【対象者への配慮】

当たり前ですが、1つとして同じ姿形の花が咲く事はありません。

工業製品と違い、1鉢1鉢の個性であり、自分でしか咲かせられない花の姿なので、優劣を付ける事無く平等に扱う事が大切となります。

花芽は柔らかく折れやすい為、花芽が折れてしまった場合、担任の先生のスペア鉢と交換してあげてください。花芽は2本付いておりますので、最低でも1本は開花させる事ができるかと思えます。

稀なケースですが、開花が極端に遅かったりする場合、置き場所に問題がある場合があります。後述致しますが、教室内で育てる場合、日照の当たる置き場所と日陰になる置き場所を定期的にローテーションさせて頂く事が必要となります。

■ 1 指導計画・スケジュール

< 9月から活動を始める場合 >

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月				
■学校との打合せ				■学校との打合せ				■2月～3月頃次年度の調整 学校との打合せ							
				活動時期9月～12月上旬											
				●9月 1回目の活動 栽培・成長観察				●12月 2回目の活動							
●圃場にて苗の準備															

< 3月から活動を始める場合 >

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
■学校との打合せ											
			活動時期3月～5月								
			●3月 1回目の活動 栽培・成長観察			●5月 2回目の活動					
●圃場にて苗の準備											

■ 2 事前の準備

資材、花材の準備



少人数での実施であれば、1週間前に花芽付き苗の選定を行い鉢入れをする。使用数量が100鉢以上など、多くなる場合は、事前の開花調整が必要となる為、遅くとも3ヵ月前には苗の準備に取り掛かる必要がある。

■ 3 当日の流れ

10月30日 1回目

時間 9:00~9:30

生産圃場にて、搬入する苗や資材の準備と車に積み込み作業

- ・数量の確認
- ・各クラスごとに仕分け



時間 9:30~10:30

学校への搬入（車）、スタッフで最終打合せ

- ・授業場所へ荷物を搬入

時間 10:30~10:45

全体説明

- ・生育～持ち帰りまでの説明



時間 10:45~11:15

教室へ移動、各クラス事に授業を行う

- ・コチョウランの性質、育て方などの説明
- ・水のやり方や鉢の置き方の指導

1月13日 2回目

時間 9:30~10:30

学校への移動（車）、スタッフで最終打合せ

- ・授業場所へコチョウランを入れる箱やリボンなどの資材を搬入

時間 10:30~11:15

各クラスで、授業を行う

- ・箱の組み立て方とリボンの作り方を説明
- ・持ち帰った後の管理方法の説明

■ 4 具体的な手順 (1回目)

<全体での説明>

① 自己紹介

講師の出身校で実践する時は、

「近くの〇〇から来ました」

など身近な内容を話すと親しみがわく。

アシスタントがいる場合には、紹介する。



② 内容の説明

・これから実践する内容を簡単に説明する。

✧ コチョウランの苗を受け取る

✧ コチョウランに名前をつける。

✧ 支柱を挿す。

✧ 専用のクリップで花芽をとめる。

✧ 水をあげる。

※黒板があれば、箇条書きにして説明するとよい。

・コチョウランの説明

実物や写真などを用意して、植物の説明をする。

<コチョウランの基本的な解説など>

原産地 東南アジア

開花期 日本では12月～3月位まで。

特徴・コチョウランは着生ランという、木などに根を広げて着生する高温多湿地域の植物です。

・元々熱帯雨林に生息する生物なので寒さには弱く、最低温度は10℃以上必要とされています。

・コチョウランはCAM植物といって、夜間に光合成をする珍しい植物です。

③ 1人1鉢受取り、教室に移動する

・両手でしっかりと鉢を持ち、教室に移動する。



<教室での説明>

④ コチョウランに名前をつける。

- ・プレゼントする相手をイメージしながら、コチョウランに、オリジナルの名前を付ける。（名前を付けると、愛着がわき毎日の世話も積極的に行える。）

例1) お母さんがピンクが好きだから。

「ピンクビューティ」など

例2) 大切な人の名前を花に付ける



⑤ 名前札にコチョウランの名前を書き鉢に挿す。

鉢に、自分の名前を書く。

- ・根と鉢のすき間に、名前の札を差し込む。
- ・鉢に油性のペンなどで自分の名前を書く。（名前シールなどを使用してもよい）

※教室に並べたときに、自分の鉢がわかるように名前を書いておくとよい。

- ・目印のシールや鉢に絵を描いてもよい。



⑥ コチョウランの根元に水をたっぷりあげる。

⑦ 水が鉢底からでなくなったら、鉢皿にのせて教室まで運ぶ



⑧ 教室の後ろや窓際など暖かいところに置く。



⑨ 管理の仕方について説明

コチョウランの水やりは、1週間に1度⑥⑦の工程と同じく行ってください。

コチョウランの花芽は日照に向かって伸びていく為、花芽の先が向いている方向を南側に向けて置いてください。

よりきれいに開花させる事が出来ます。

*教室で育てる場合、日向に置くかと日陰に置くかで成長に差が出る為、水やりの際に場所の変更を行ってください。

1週間置きに、日向→日陰→日向→日陰のローテーション。

*日照が強い時は、カーテンで遮光してください。葉焼けする可能性があります。

5月～10月上旬までは特に注意が必要です。



⑩ 支柱を鉢に2本差し込む

花芽が約20cmの程伸びた段階で、鉢に対して真っ直ぐ支柱が立つように支柱を2本差し込み、花芽と支柱をクリップで固定する。花芽は柔らかく折れやすいので、折らないように注意して行ってください。



⑪ 支柱に花芽を専用のクリップで固定する。



- ⑫ 教室の後ろなどに鉢を置き育てる。
- ・置き場所の温度は、
日中20度前後、夜間でも10度程度が望ましい。
 - ・暖かい場所に置き、1週間に1度水やりを行う。
 - ・窓側と廊下側では、温度差があるため様子をみて場所をローテーションする。



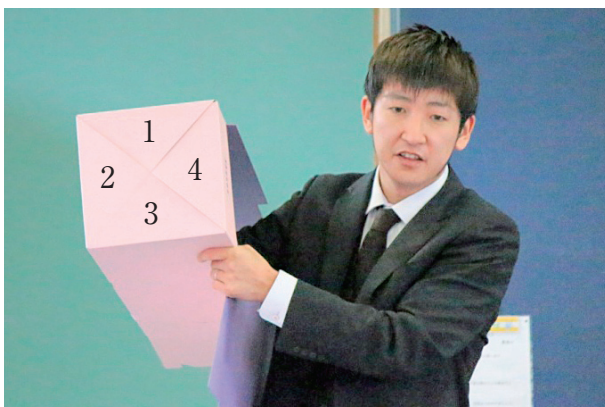
■ 5 具体的な手順（2回目）

クラス全員のコチョウランが開花したら、持ち帰りの日時を決め、プレゼント用に仕上げる。

- ⑬ 開花したコチョウランを渡す。
- ・花は4輪～半分咲いていれば良い。
 - ・児童名とコチョウランにつけた名前を呼び、1人1人に花の咲いた鉢を手渡す。
 - ・「がんばって育てたね」
「こんなに咲かせてくれてありがとう」
「よかったね」など指導者から一言添える。
- ⑭ 箱とりボンを作り、メッセージカードを添える
- ・大切な人にプレゼントするために仕上げを行う。
 - ・ダンボールで出来た箱を配る。



- ⑮ 箱の組み立ては、指導者が箱を用いて作りながら説明する。
箱の底面は、1・2・3・4の順で折り畳み、底がきっちり固定されている事を確認する。



組み立てが完成した箱

⑩ リボンはワンタッチリボンを用いて作る。

- ・リボンの内側にある2本の細いヒモを引くだけで、簡単にリボンができる。



⑪ 鉢にリボンを付ける。

- ・鉢を正面に向けて、茎や鉢など好きなところにリボンを付ける。
- ・友達にリボンを抑えてもらい、リボンの後ろに行って結ぶと上手に結べる。



⑫ カードにメッセージを記入する。

- ・日頃の感謝
- ・大事に育てた想いなど



⑬ 記念撮影



② 持ち帰った後の管理方法（当日の配布資料）

お子様の育てた胡蝶蘭を大切に管理して頂く為に

①置き場所を決める

良い胡蝶蘭を育てる為に重要なのは、胡蝶蘭の置き場所です。自宅に苗を持ち帰ったら、下記内容の通りに最適な置き場所を探しましょう。

- 1、少しでも日照の入る場所（直射日光はNG）
- 2、空気の籠らない場所（30℃以上はNG）
- 3、冬場でも暖かいところ（最低10℃前後）
- 4、冬場でも湿度が保てる場所（20%以上）

★冬場はなるべく暖かい所に置くことが最優先事項です。

オススメはリビングのカーテン越しです。



②置き場所をなるべく変えない事
置き場所が多少過酷な環境であっても、胡蝶蘭は、置かれた場所に適応していく能力を持っています。

最適な置き場所を見つけたら、なるべく置き場所を変えないで管理する事を強くお勧め致します。

③水やりや肥料について

パーク栽培に適した水やりは、夏場で5日～1週間に1回、冬場で10日～2週間に1回、春と秋は1週間に1回となっております。

冬場は水やりを控え、夏場はタップリと水を与えて下さい。

※鉢底に穴が空いていない鉢は、よく水切りをしましょう。

※肥料は半年分入っておりますので、翌春まで一切必要ありません。



■ 6 実施する上での課題

- ・先ずクラス全員のコチョウランを开花させる事が1番の目的であり課題となる。
- ・生育スピードに若干の差は出るが、置き場所をローテーションさせる事により、ほぼ均等に成長させる事が出来る。
- ・大凡2カ月から2カ月半で开花となるが、実施地域（寒冷地）によっては开花に3ヵ月以上かかるケースもあるかも知れません。
- ・管理自体はそれほど難しくないが、支柱立てなどの技術的要素が必要となる為、指導者の指導技術も重要となります。

■ 7 改善点等

- ・今回は実施期間を敢えて育てるのが難しい10月開始、1月終了としたが、実施期間は、コチョウランが育て易い3月スタート、又は9月スタートの年2回に分けるのが好ましい。
- ・支柱立ての段階で支柱立ての角度が傾いていると、持ち帰りの箱入れ作業の時にコチョウランが箱に入らない等のトラブルが発生する為、支柱は垂直に差し込みしっかりと固定する。
- ・リボン縛るのに苦戦する児童が多かった為、リボンを縛る際は2人1組で、リボンを抑える人、縛る人に分かれて行った方が効率が良い。
- ・リボンの色を7色持参したが、選ぶのに時間が掛かる、好みの偏りが出る為、花色に合うリボン1色に統一した方が良い。
- ・箱作りの工程が複雑な為、1度指導者が完成までの流れ、完成品を見せてから個々に指導する方が効率が良い。
- ・予想以上に花のボリュームが良く、持ち帰りの箱が大きくなってしまった。持ち帰り時の安全性も考慮し、再度適切なサイズを検討する必要がある。

■ 参加者や学校教諭からの感想

No	質問事項	評 価				
		大変良い	良い	普通	悪い	どちらとも いえない
1	花卉業界が推進する学校での花育活動についてどう思われますか？	81.2%	18.75%	0%	0%	0%
2	花育という言葉・活動をご存知でしたか？	3.12%	81.25%	15.6%	0%	
3	子供達が大切に育てた胡蝶蘭をプレゼントされてどう感じましたか？	93.7%	6.25%	0%	0%	
4	花や植物は好きですか？	43.75%	56.25%	0%	0%	
5	花を渡しに来た時のお子様の様子はどうでしたか？	ほぼ100%の親御様がニコニコしながら嬉しそうに渡されたとの回答結果でした。				

親御様からのご意見(一部抜粋)

- ・嬉しすぎて娘を抱き締めてしまいました。
- ・とても嬉しかったです。このような活動は、現代の忘れた何かを思い出すきっかけになると思います。
- ・素敵な花が育てられて、自信が持てたようです。
- ・誰かの為に花を育てるといのは、優しい気持ちが持てとても良いと思います。
- ・教育・商業的に一石二鳥だと思います。
- ・驚いた私の姿に、子供達はとてもうれしかったようで、お互いにHAPPYな気持ちになれたと思います。
- ・気持ちをとても温かくする事ができました。
- ・特に子供から貰ったので、大切に育てたいです。花の事で会話する事も増えました。
- ・とても意義のある活動でした。
- ・母親や家族との結びつきとして得るものを考え素晴らしい経験でした。たくさんもの子供達も知ったと思います。
- ・今回、子供から花をいただいてとてもうれしかったです。これからもつづけていってほしいと思います。ありがとうございました。

花市場と花育アドバイザーの連携による花育活動 ～株式会社JF兵庫県生花と花育ネットワーク協会のタイアップ事業～

作成者：花育ネットワーク協会 代表 家城靖子

1 はじめる・・・からはじまる

花市場である株式会社JF兵庫県生花の「花育をバックアップしていきたい・・・」という思いと花育ネットワーク協会の「継続的に活動していきたい・・・」という思いが繋がることで始まった連携花育。

それまでも各々の立場で花育活動を行ってきたが、互いの目的、立場を理解・共有し、それぞれが出来ることを提案・協力していくことで、より深く効果的な花育活動を地元に着定・発展させることができるのではないかと期待が生じた。まだまだ周知されるには程遠い阪神地区の花育事情に一石を投じるとまではいかずとも、小さな雫を落とし、そこから波及していくことを願い、花市場との連携による花育活動が2013年秋（平成25年）手探りではあるが動き始めた。



JF兵庫県生花の吉田氏と岡氏と
花育ネットワークのアドバイザー

2 こべっ子花育応援プロジェクト・・・

出前花育授業 ～花と緑のキッズプログラム～

連携による花育活動をスムーズに運営していくために、花市場と当協会が実行委員会という体制を取り、学校園等へ出前花育授業を行うプロジェクトを立ち上げた。

題して「こべっ子花育応援プロジェクト」である。（株）JF兵庫県生花には花材提供をしていただくと同時に、生産地・流通等の講話を、花育アドバイザーが制作を、と各々の得意分野を担当し一つの花育授業を組み立て学校現場等に提案・実践していこうという取り組みである。案内パンフを制作し、25年度期限の全国花育活動推進協議会モデル校助成事業に取って代わることができる独自の仕組み作りを目指した。

また、花育の普及啓蒙という目的に沿えば学校授業以外や保護者にも活用できるように柔軟な実施要件とした。

2-1 こべっ子花育応援プロジェクト 活用事例（立ち上げ～26年度）

日程	対象場所	対象者	内容
25年10月31日 13:00～14:00	第10回神戸市PTAフェスティバル (於) 神戸ハーバーランドスペースシアター	神戸市内の園児・ 小中学校学生・保護者 100名	ヒバを使った クリスマスリースを作ろう
26年5月8日 10:45～11:30	神戸市青陽東養護学校	中学部 19人	保護者へありがとう 感謝の花アレンジを贈ろう
26年11月12日 14:00～14:45	学校法人西須磨幼稚園	年長児 48人	ヒバを使った クリスマスリースを作ろう
26年12月22日 10:40～11:45	神戸市立青陽東養護学校	高等部 1年生 52人	ヒバを使った クリスマスリースを作ろう
27年2月20日 10:00～11:30	神戸市立竜が台小学校	6年生 29人 保護者 16人	保護者へありがとう 感謝の花アレンジを贈ろう

事例① 花育ワークショップ

「Let's花育！森を感じよう ヒバで作るクリスマスリース」

- 日時：25年11月30日 13：00～16：00
- 会場：神戸ハーバーランド・スペースシアター
- 定員：100名
- 対象：幼稚園児～小中学生

第10回神戸市PTAフェスティバル
中学校PTA連合会体験ブースとして実施



神戸市PTAフェスティバルは神戸市立幼稚園PTA連合会、神戸市立小学校PTA連合会、神戸市立中学校PTA連合会、神戸市立高等学校PTA連合会、神戸市立養・盲学校PTA連合会の5校種が合同でPTA活動のPR、親睦、交流を目的として開催している。当日は幼児から保護者まで約2000人の来場者があり、連合会毎に各種体験コーナーを設け、親子で楽しんでもらうイベントである。

PTAという性格上、花育という活動を知っていただくのには絶好の場であり、「花育体験コーナー」を提案させていただいた。花育とは?の説明から始まり会議を重ね、ご理解いただき中学校PTA連合会ブースにて実施するに至った。

事前準備

3時間の開催時間の中でできるだけ多くの子どもや保護者に参加してもらいたいとのことで100人分の材料を用意した。

座席は会場スペースの関係16席となり、入れ替えも考慮すると一人あたり20分程度で製作できるように、下準備を行うことになった。

黄金ヒバ（小枝）は、枝ぶりにかなりの個体差があるため概ね均等になるように調整し組み合わせをしておいた。

新聞紙で作るリースベース、リボンの整形、オーナメントのギフトボックスに両面テープを貼る作業は、イベント担当で分担し持ち帰り、当日持ち寄った。



提供して頂いた黄金ヒバ

当日の流れ

午前中に受付・テーブル・イス、看板等の会場設営・その他花材等の準備を行う。

持ち寄った飾りつけオーナメント等を100人分の小袋に分ける。

その後全体の流れの確認及び受付、誘導、製作の担当に別れ手順等の確認・打ち合わせを行う。

会場は混み合うことが予想され、行列を最小限にするため、整理券を配布した。

13時より、配布した100名分の整理券は35分で発行終了となる。

製作は13時30分より、随時入れ替え制で行い、15時30分には100人のリース作りが終了となった。

反省点と改善策

今回はより多くの子どもに参加してもらうために短時間で仕上げる必要があったこと、また順番待ちを避けるため、空席に随時入ってもらう参加形式をとった。そのため個々バラバラの開始となり、使用したヒバや木の実について観察する時間や感想を聞く時間、手入れの方法等を伝えきれてない部分が反省点としてあげられる。

参加の有無に関係なく保護者はヒバに興味をもたれた方が多くみうけられ、「この木（ヒバ）はどこで入手できるのですか?」「いくらぐらいしますか?」等の質問や「お友達と作ってみます」「大きいサイズに挑戦してみます」と関心の高い声が聞けた。「本物の緑に触れてもらう」というワークショップであり、この部分においては成果があったと思われるが、一過性のイベントで終わらないように、今一步踏み込み「心の栄養」としての花育の考え方もしっかり伝えて行くことが必要不可欠であると思われた。

上記の改善策としては開始時間を割り振った整理券を発行し、制作の時間を決め、通常の花育授業のミニ版として観察・説明の時間をとることで解消できると考えられる。また花育のリーフレットなどを配布することでも補完できると思われる。

今後の課題

学校授業等を通して子どもたちに伝える花育は、保護者にもその目指すところをご理解いただき日々の暮らしの中で子どもたちが振り返り、実感できる環境があつてこそ、結実していくものである。

そして、学校現場で花育授業を継続的に実施していく上で、保護者のお手伝いは必要になってくると思われる。

それゆえ、PTAなど保護者を対象とした花育体験を提案し行くことも今後の課題としてあげられる。



ヒバのリース
(木の実以外のオーナメントはシールを使用)



棒状にした新聞紙に輪ゴムを12本通し
さらに、リング状にしてリースベースを作る



周囲360度が開放スペースのため、パネルで動線をつくり、
混乱なく入れ替えができるように配慮した



ボードには、作り方の手順を貼りだした



ヒバ以外の飾りつけ材料は袋に入れて準備
整理券と交換で受付で選んでもらい、座席へ誘導



戸惑っている子どもたちには保護者や
イベント担当者が声がけをする

ヒバリースの製作手順



- ・基準棒（7cmにカットしたストロー）にあわせヒバを12本（輪ゴムの本数）切る



- ・葉先が同じ方向になるように輪ゴムに挟みながら一周する（中央から左右にまわしてもよい）
- ・新聞紙が見えているところは、さらにヒバを切り、追加する



- ・リボンを取りつけるモール先端は輪状にする
- ・カラマツ等の木の実は輪ゴムに引っ掛けて固定し、飾り付けていく

事例② 出前花育授業花育

保護者へありがとう！ 感謝の花アレンジメントを贈ろう

- 対象者：中学部 19人
- 所要時間：45分
- 指導者：花育アドバイザー 8名 教諭10名
- 実施場所：神戸市青陽東養護学校
生活単元学習の時間として実施



生徒の作品

<資材>

- ・給水スポンジ（○△□の刻印を施す※）
- ・洗面器
- ・発泡容器（両面テープ付けておく）
- ・うす紙
- ・木製のクリップ
- ・整形リボン（両面テープ付けておく）
- ・ありがとうシール+ワイヤー
- ・清掃道具（ゴミ袋、雑巾等）
- ・カラーシール丸型
- ・ラッピング袋
- ・カラーモール
- ・ハサミ（実施後本数を確認）
- ・花カット基準紙
- ・名前記入シール
- ・サインペン



手際よく出せるようにセットしておく

※花き研究所 望月寛子先生「脳機能回復プログラム」の手法参照

<花材>

- ・トルコギキョウ（1人4輪）
- ・ガーベラ（2色）（1人1本）
- ・スプレーカーネーション（1人4輪）
- ・カスミ草（適量）

※カスミ、トルコギキョウとその葉は、
そのまま挿せる長さ（10～12cm）に切り分け
しておく。

※ガーベラ・スプレーカーネーションは、机のスペースに合わせ、取り扱い長さにカットしておく
（25cm程度）



JF兵庫県生花に提供頂いたお花

<目的>

- *生のお花に触れる心地よさを感じる。
- *自分の好きな色のお花、ペーパー、リボンを選ぶことで、主体的に活動する。
- *器を作り、花を飾っていく作業を自主的に楽しみ、また達成感を得る。
- *花を持ち帰り飾ること、花を贈ること等、実際の生活の中に意欲的に活かしていく。

<配慮事項>

最初に見通しが立てるように、視覚で確認できるデモンストレーションを行う。
 集中できるように、資材・花材は使う物をそのつど机に出すようにする。
 常に慌てず落ち着いた態度、口調で対応するように心がける。

アドバイザーの心得

項目	効果等
常に笑顔で	安心感を与える。
口を大きく開ける	伝わりやすい
お腹に力を入れる	大きな声が出やすい、背後から声がけをしない。
全員に意識を向ける	手順の説明にとらわれない柔軟な対を心がける
声の抑揚をつける	ポイントはゆっくりと
禁止の言葉をいわない	(例) ×走りません → ○歩きます
短い文で指示	1フレーズ指示で混乱を避ける
言葉づかい	成人向けの話し言葉で接する

- ・上手な作品を作ることが目的ではない。
- ・出来ることを見つけ、できる方法を考えながら指導する。
- ・生徒たちが自主的に取り組んでいるかに意識を向ける。
- ・指示が分からなくて困っている様子だったら声をかけ、誘導する。
- ・指示と違っていても、その子なりに出来ていれば認める声がけをする。
- ・集中が途切れたり、取り掛かりにくい生徒には無理じいはせず様子を見て声がけをする。

<事前準備>

※学校側との打ち合わせ

- 実施にあたって、日時、内容の選定
- ハサミ使用の可否等、可能作業についての確認
- 生徒の人数、職員の人数を確認
- テーブル配置を確認・もしくは依頼
(テーブルの配置は通常の授業スタイルが望ましい)
- 水場の確認
- 控え室の確認
- 授業風景撮影許可について確認依頼



手順についての検討会

欠席者への対応について（完成品を預けるか否か）

保護者用プリントの配布依頼

★事前に手順書を確認してもらい、無理がないか職員とすり合わせを行う

※スタッフとの打ち合わせ

配慮事項等については、事前に学習会を開き生徒の特質・言葉掛け・対応方法等について認識を高めておく。

当日の手順・製作方法については、生徒が混乱なく完成度の高い作品を作れるように、シミュレーションを繰り返しながらアイデアを出し合い、最良の方法をさぐる。

※資材・花材の下準備

- ・ 給水スポンジへの刻印
- ・ 薄葉紙の中心目印、シール貼り
- ・ 容器の目印及び口元に両面テープ貼り
- ・ リボンの整形と両面テープ貼り
- ・ 花材の切り分け

カスミ、トルコギキョウとその葉は、そのまま挿せる長さ（10～12cm）に切り分けしておく。

ガーベラ・スプレーカーネーションは、机のスペースに合わせ、取り扱い長さ（25cm程度）に切っておく

花アレンジをつくろう

器づくり 10分



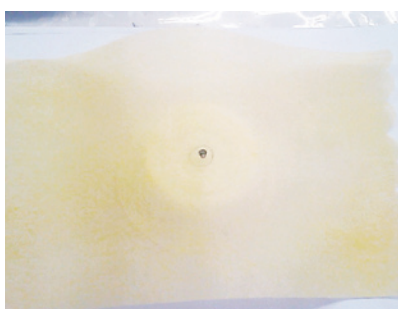
①薄葉紙を選び、中央に印をつける



②容器を裏返して中央に印をつけ
容器の周りに両面テープをはる



③両面テープのシールをはがす



④薄葉紙の中心と容器の中心●印を
重ねる



⑤もう一つの容器を上から
かぶせる



⑥上の容器を外すと薄葉紙が
下の容器につく



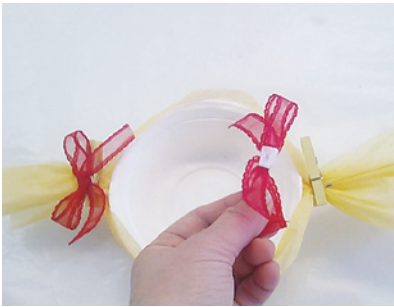
⑦容器を表に返し、予め付けておいた赤いシールを合わせ握り持ち反対側も同じように握る



⑧木製のクリップで挟みとめる



⑨リボンを選ぶ



⑩リボンの裏面には両面テープを貼り、木製クリップに留める

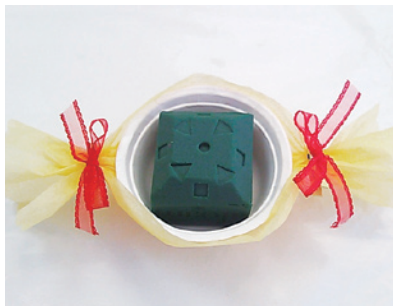


⑦～⑩の作業を繰り返し反対側も仕上げる。

スポンジを給水させる 5分



①各テーブルに水を張った洗面器を用意する、スポンジを水面に浮かべ給水させる



②十分に給水したら、容器に入れる

花選び、アレンジメント 10分



①花を選ぶ
ガーベラ1本 カーネーション4本



②切る長さを記した花カット基準紙を用意して、その上に花をおく



③基準紙に合わせて茎を切る

花を挿す

※花き研究所 望月寛子先生「脳機能回復プログラム」の手法参照



①花を挿す位置に記号の記しを付けておく、★印4箇所にも葉を押す



②●印にガーベラを押す



③■印4箇所にもトルコキキョウを押す



④▲印4箇所にもカーネーションを押す



⑤花と花の間にカスミ草を押す



⑥ピックを押して完成

反省点と改善策

器を包む薄葉紙の両端の処理として、「目印を合わせる」という具体的な方法をとったが、かえって混乱が生じた。

単純に「束ねる、握る」という表現の方が理解しやすいと思われた。

木製のクリップの中には、比較的バネが硬いものがあり、つまみにくい場面があり、事前に硬さの確認する必要がある。

スポンジの給水には興味を示す生徒が多かった。

手順どおりにスムーズにできる生徒がいた反面、いずれの作業工程においても数名は不得意・困難とする場面が見受けられた。この場合、担当教諭・アドバイザーの誘導やアシストにより取り組むことができたが、個々の生徒の実態をもう少し把握した上で、方法を考えることも必要であると感じた。花自体に終始興味を示さない生徒も数名見受けられたが、すぐ傍らに花があり、同じ花時間を共有することには意味があると思われる。



後日届いた生徒からの色紙

出前花育授業 保護者への配布手紙



26年度
こべっ子花育応援プロジェクト
出前花育授業

保護者の皆様へ

今日はみなさんに、季節のお花を楽しんでもらいました。
お家に持って帰られたら、ご家族の皆さんの目にとまるところに飾ってみて
はいかがでしょうか。
お花があると、きっと笑顔が広がっていくことと思います。
お子様の頑張りにも、ぜひ声掛けをしていただければ幸いです。
吸水スポンジにお水を含ませています。指で触ってみて、乾いているよう
でしたら、お水をあげてください。
切り花ですが、大切にお世話をしても綺麗に咲いてくれる期間は限り
があります。
「短い間だったけど、お花があつて気持ちよかつたね」「また、飾ろうね」など
とお話してください。「こちよく花(自然)と関わった時間」としてお子様の記憶
にのこり、心豊かな成長の一助となってくれることと願っております。

花育活動について

花育とは、お花の美しさや気持ちよさを実感し、お花を通して思いやりや感
謝の気持ちを育んでもらうことです。
そして、何よりもお子様一人一人がお花に触れた時の気持ち、創造する力
を大切に活動しています。

☆こべっ子花育応援プロジェクト

神戸市内を中心に学校施設園等に出前花育授業としてお伺いさせてい
ただいています。

《花材協力:株式会社 JF 兵庫県生花》

こべっ子花育応援プロジェクト実行委員会

神戸市須磨区飛松町3-3-4

(花育ネットワーク協会※ 内)

TEL 078-734-0208

<http://hanaiku-net.com>

e-mail info@hanaiku-net.com

※(全国花育活動推進協議会登録団体)

今後の課題

特別支援学校等での花育は、その性質上とても有意義なものである。

生活単元学習のなかで継続的・体系的な計画によって展開していくこと、また就労支援（職業訓練）としての位置づけで花育授業が成り立つように、アドバイザーの資質向上、カリキュラム、方法等さらなる工夫が必要であると思う。

3 行政・市場・花育アドバイザーとの連携へ・・・

兵庫の花づくり推進協議会 花育事業 「花と緑のふれあい教室」

国産花きイノベーション推進事業（補助金活用）を受けて実施する花育事業「花と緑のふれあい教室」平成26年度の実施16枠のうち、株式会社JF兵庫県生花が担当する4つの幼稚園について、アレンジ指導を花育ネットワーク協会が担当した。

実施に当たっては、兵庫県農産園芸課、株式会社JF兵庫県生花、花育ネットワーク協会、そして実施団体（幼稚園）の4者で打ち合わせ検討会を行うことから始まる。ここにおいてようやく行政、卸売市場、花育アドバイザーの連携による花育活動が実現するに至った。これは、花育活動を継続的に発信し、定着させていくために必要不可欠な人材・資金・資材の連携がおぼろげながらも見え隠れしてきたようで、花育実践者の立場としてはとても心強くありがたいことである。

3-1 平成26年度「花と緑のふれあい教室」担当園一覧

日程	対象場所	対象者	内容
26年10月27日 10:30～11:30	神戸市中央区 山手幼稚園	園児78名+保護者30名 (年少22 年中28、年長28)	プランター寄せ植え 花壇植え
26年11月1日 10:30～11:30	兵庫県西宮市 光明幼稚園	年長127名+保護者25名	プランター寄せ植え
26年11月12日 10:00～12:50	神戸市垂水区 愛徳幼稚園	①親子18組 10:10～10:50 ②親子17組 11:10～11:50 ③親子15組 12:10～12:50	黄金ヒバの クリスマスリース
26年12月1日 10:40～11:45	兵庫県宝塚市 めぐみ幼稚園	園児128名+保護者 (年少22、年中27、年長28)	クリスマス キャンドルアレンジ



事例紹介①

100周年おめでとう!幼稚園をお花でかざろう

「花と緑のふれあい教室」実施概要

項目	内容	備考
実施団体名	山手 幼稚園	
実施日 時間	平成26年10月27日(月) 一部 10:30~11:15 二部 11:20~11:35(年長28名のみ花壇植え付け)	資材搬入(兵庫県生花・岡氏) 10月24(金)時間調整中 ・開催日9:00に車2台 園庭ジャングルジム横に並列駐車。 ・予備日:10月29日
参加人数	年少22名 年中27名 年長28名 (合計園児77名) 希望保護者(20名程度)	年少・年長 3グループ 年中 1グループ
活動内容	・100周年を迎えるにあたって、園庭を飾る (プランターへの寄せ植え)	
活動目的	・生のお花に触れた時の心地よさを感じてもらう。 ・お庭がなくてもプランターを使ってお花を楽しむことが出来ることを体験する。 ・お花でいっぱいになったことで感じる気持ちを大切にし、お客様をお迎えするお花は大切な役割があることを伝える。 ・お花のお世話を通して命あるものを育てる事を体験する。 ・親世代もお花に触れる事が少なくなっているのので、子供と一緒に体験していただく。	
幼稚園で 用意するもの	65型プランター 7個 + (65型プランター1+長楕円プランター4) 球根80ヶは園で用意(私立幼稚園連盟より寄贈) ジョウロ(7ヶ有り)・名前札	

<資材>

- ・プランター(ミニ・65型)
- ・鉢底ネット
- ・鉢底石
- ・網ネット(台所用)
- ・培養土
- ・土入れ(プラカップ大・小)
- ・園芸シート
- ・ジョウロ
- ・苦土石灰
- ・バーク堆肥

<花苗>

- ・パンジー
 - ・チューリップ球根
 - ・ストック
 - ・アリッサム
- 花壇用 ※花壇は4箇所とも土壌改良が必要だったので、実施2週間前に苦土石灰バーク堆肥の鋤込み作業を行った。

～お花のお家を作ってあげよう～ プランター（65型）にお花を植えよう（4人グループ）

花の話 3分



- 市場の方にお花について教えてもらおう
- ・お花の名前について
いろいろなお花の名前を覚えよう
 - ・お花の産地について（地図を見せながら）
地元神戸ではお花をたくさん作っているよ
 - ・お花の苗について
農家（生産者）の人が優しく種から育てた苗だよ
 - ・今からはみんながお世話してステキなお花を咲かせよう

制作手順の説明5分

- ①鉢ぞこネットを敷いて、ナメクジさんの侵入を防ごう
- ②ゴロゴロ石を敷いてビシャビシャ水たまりを防ごう
1人・・・大カップ1杯
- ③栄養のはいった、ふかふかの土を入れよう
1人・・・大カップ3杯
- ④お花の苗を選びに行こう
1人・・・1苗
- ⑤お花を黒い容器から出してあげよう
- ⑥お花をぶつからないように、ゆったり置いてあげよう
- ⑦お花の周りに土を入れて倒れないようにしてあげよう
1人・・・大カップ2杯
- ⑧球根を植えてあげよう。
1人・・・1ケ



⑨球根の周りにふかふか土をかぶせてあげよう

1人・・・大カップ2杯

⑩土の量を花育アドバイザーに確認してもらおう

土を入れてあげよう

⑪お花の根本の土を軽く押さえてあげよう。

素敵な「お花のお家」の完成です



植え込み 20分



年中児は4人ひと組で作業



花壇苗はお気に入りを選びました



保護者・未就園児も参加

プランター移動・灌水 5分

①プランターを並べて幼稚園を素敵にしよう

②大きく育つように、お水をあげましょう
話しかけながらお世話してあげるとお花もうれしいね



優しく、丁寧に灌水作業

写真撮影→お片付け→整列

※上記記載の鉢底石・土入れ回数は使用するプラスチックカップ、プランターサイズ
苗の大きさや 1つのプランターで作業する人数などによって
異なるため、事前に確認しておく必要がある。

反省点と改善策

年長年少組は南園庭、年中組は北園庭で分かれて実施。約20人の保護者の参加・見学があり、園児とともに植え込みをしていただいた。花の知識、植え込み作業、園庭へのプランター設置、灌水、お手入れの話と、一連の流れが実施でき、より愛着が持てたと思われる。

進行の反省点としては、年中組が予定時間より7分ほど遅れてしまった。

鉢底石をネットに入れるのに意外と時間がかかった。ミニプランターが小さく（浅く）、また球根が大粒であったため、根付きに不安が残った。65型プランターは幅広タイプであったため、培養土が不足気味であった。

終了後、スタッフで土の充填をおこなった。

上記反省点は事前確認で解消できる。

今後の課題

活動後の感想は園、園児、保護者にアンケートを依頼しているが、その後の花の成長やお世話の様子など、子どもたちの花への関わりを後追いできるように、定期的なコンタクトを取る計画を盛り込む必要がある。

花育を継続したい、新たに取り入れたいという相談窓口としての機能を確立していくためにも有効である。

成長日記・観察日記などを渡しそれを発表する場を設定する。お絵かきや作文コンクールなどを関連付けて企画し、ホームページや業界新聞、イベントなどで発表・展示するというような一連の流れの中で花育体験を位置づけることにより、子どもたちにとってもより深く心に残る体験となり、花緑や自然への興味を持つ機会が増してくるであろう。

「花と緑のふれあい教室」が一過性のものでなく、活動の糸口となるように、行政、市場、実践者が知恵を出し協力体制で取り組んでいくことが花育を普及・定着させていく近道だと思われる。

今後も引き続き、以上のことを踏まえ実践していくことが課題である。

事例紹介② 神戸市愛徳幼稚園

親子のつどい クリスマスリースを作ろう



徳島の黄金ヒバ
兵庫県産のカーネーション



ケニア産のヒペリカムにビックリ



テーブルセッティング



リースにヒバを挿しながら一周



テーブル毎にアドバイザーが進行



テラコッタ付クリスマスリースの完成

事例紹介③ 兵庫県宝塚 めぐみ幼稚園

サンタの隠れ家
クリスマスキャンドルアレンジを作ろう



カーネーション・ヒペリカム
黄金ヒバ



切り分けの仕方を実物で説明



黄金ヒバを挿していく



お花を挿していく



木の実・プレゼントも飾る



ローソクのようなゆらぎのLEDライト

中学校技術・家庭(技術分野)生物育成授業「容器栽培」

作成者：神奈川県小田原市立泉中学校 教頭 石塚 英雄

実践者：神奈川県小田原市立泉中学校 教諭 村越 一馬

■ 対象者・人数：中学校2年生 213人

■ 所要時間：17時間

■ 対象場所：中学校昇降口脇のスペース

■ 指導者：中学校技術・家庭科 教員

■ 学習指導計画

月	時数	主な実習作業	学習内容	評価
4	1		○作物を分類しよう ○夏野菜の栽培計画を立てよう	関心・意欲・態度 ○栽培記録で生じた疑問を自分で調べている
	2	用土の準備	○容器栽培に適した土を作ろう ○定植と観察のポイントを押さえよう	○作業すべきことが適切にされている
	3	苗の定植 支柱立て	○容器栽培の特徴を知ろう ○日常の手入れをしよう	生活の技能 ○土づくりができる ○定植ができる
5	4	トマトなどの夏野菜の栽培 誘引、摘芽 病虫害の防除	○作物の生育と気象条件について知ろう ○病虫害と農薬について知ろう	○誘引、脇芽かきができる ○摘芯ができる
	5		誘引、摘芽 根起こし	○コンパニオンプランツ、自然農薬とは何だろう ○作物に必要な養分を知ろう
6	6	追肥、着果剤散布 増し土	○肥料の与え方を考えよう	知識・理解 ○トマトの育ち方、栽培法を理解している
	7	誘引、摘芽、摘果	○観察結果から分かったトマトの育ち方をまとめよう	
	8	誘引、摘芽	○作物の増やし方を調べよう	
7	9	追肥、剪葉、摘芯	○収穫物の評価をしよう	
	10	収穫、糖度の測定	○連作障害と輪作について知ろう	
	11	作物残渣の撤去 用土のpH測定 (用土の太陽熱還元消毒)	○土壌改良をしよう ○夏野菜の栽培のまとめ	

9	12	用土の準備	○ダイコンの育ち方と観察のポイントを知ろう ○品種と作型について知ろう	生活の技能 ○収穫時期に合わせた品種が選べる ○種まきができる ○間引きができる 工夫し創造する能力 ○充実した作物を作るための課題を把握し、それを克服しようとする 知識・理解 ○ダイコンの育ち方、上手な育て方を理解している
	13	種まき 防虫ネットの設置	○種まきと発芽条件 ○ダイコンの品種を決めて、生育ステージを確認しよう	
	14	ダイコンの栽培 間引き	○栽培上の課題をつかもう ○課題を解決するための方策を考えよう	
10	15	間引き、追肥 土寄せ	○ダイコンの栽培計画を立てよう ○防虫・防寒の方法を知ろう	
11	16	収穫 用土のpH測定 (用土の太陽熱還元消毒)	○収穫物を評価しよう	
11	17	チューリップの栽培 用土の準備と球根の植え付け 施肥	○チューリップの育ち方（秋植え球根の特性）と低温処理、及び観察のポイントを知ろう ○よい球根の見分け方と植え付け方を知ろう	生活の技能 ○球根の植え付けが適切にでき、チューリップに適した栽培管理・作業ができる

■ 容器栽培

生物育成授業を実施するにあたり、野菜の栽培を行うには畑など十分なスペースがないと実践が難しい。また、プランター等で栽培する場合は、水のやり過ぎによる過湿、肥料のやり過ぎによる肥やけ、根づまりなどによる根の活力低下で、思ったような野菜ができない場合が多い。

容器栽培については、これまで袋栽培やスーパーなどで使うプラスチックのバスケットの実践があった。ここでは、それらの容器よりも耐久性があり見栄えもある容器として洗濯物を入れるカゴを容器として用いた容器栽培を紹介する。

この容器は、上の直径33cm、下の直径27cm、高さは27cmで、底はドリルで右写真のように12ヶ所穴を開けている。黒の寒冷紗（縦



90cm×横180cm)を二枚重ねにして内側に敷けば、用土の流失もなく、通気性・排水性が抜群で、水やりに神経を使わなくとも過湿になることはない。そして、空気が上下左右から入り酸素を供給するため、最後まで白い活力の根が張る。また、容量も大きく、移動のしやすさや堅牢性に優れている(3年間は使用可能)。寒冷紗は化学繊維でできているので、腐ることなく何回も使用が可能である。容器栽培では、スペースが限られるため、病原菌や害虫の被害から逃れることは難しい。したがって、用土には必ず市販の土を使うようにする。なお、国華園から寒冷紗を使った透水ポットが様々な大きさで市販されている(右写真)。



■ 用土の条件

よい土の条件は、通気性・排水性と保水性・保肥性がバランス良く両立していることである。そのために、土に腐葉土、完熟堆肥、ピートモス、バーミキュライトなどを2~4割くらい混合して、土の欠点を改善しておく。特に、腐葉土は根にとって最高のごちそうになる。土の欠点を物理的に改善するだけでなく、腐葉土は微生物のエサになって分解し、野菜が必要とするチッソ、リン酸、カリだけでなく微量元素も多く供給してくれるからである。さらに、微生物が活躍すると土がフワフワとしてくる。腐葉土が分解した腐植と土の単粒がくっついて団粒構造になるからである。土は腐葉土などの植物性有機物とコンビになることで、野菜の好む用土になる。

さて、野菜によって、好む土壌酸性度は違うが、およそpHが6.0~7.0だと障害は起こらない。しかし、ホウレンソウやキュウリ、ナス、エンドウ、キャベツなど酸性に弱い野菜には、用土に苦土石灰や消石灰を混合してpH調整する必要がある。また、容器栽培では、水やりごとに石灰分が流亡しやすいので、苦土石灰を追肥してやる。ただし、弱酸性を好むサツマイモやジャガイモ、ダイコンなどには施す必要はない。用土30ℓ当たり、苦土石灰(または消石灰)を30~50g加えれば、pHが1.0上昇する。なお、追肥する場合は全体に混ざらないので、20~30gが適当である。



夏野菜の栽培 (例1 トマト)

シンディースイート 中玉トマト

特長

- ・果重35~40gくらいの中玉トマト
- ・果色は照りがあり、果色は鮮やか、甘みと酸味のバランスがよく美味しい。
- ・やや節間が伸びるが、裂果の発生少なく、上物率が高い。



栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ○脇芽は早め取る。 ○第一花房は必ず着果させて草勢を安定させる。 ○生長点の展開葉を見て、草勢を判断する。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ○水に沈むトマトを作る。 ○糖度6以上のトマトを作る。 ○5段取りを目指す。

作業の流れ

4月中旬

- 1 土作り** トマトが好む土壌酸性度はpH6.0～6.5なので、苦土石灰で調整する。水はけがよい土を好むので、堆肥を多めに入れてよく耕し、また、実つきをよくするためにリン酸肥料を入れる。有機配合肥料がおすすめである。（1週間前）
なお、苦土石灰の代わりに有機石灰を使用する場合は、効き目が遅いので、撒いて耕してからすぐに作付できる。
- 2 苗選び** 苗半作と言うように、よい苗を利用すれば収穫は半分約束されたものという意味である。よい苗とは、「葉色は濃い、葉は大きく厚い、節間は短い、茎は太い、下葉は付いている」の他に、「第一花房に蕾がついているか、一番花が咲いているものがよい」と言われている。そして、根がきちんと回っているかも併せてチェックする。

4月下旬～

- 3 苗の定植** 植えつけの前に、苗に十分に水を吸わせる。あらかじめ植え穴を作っておき、移植する。この時、鉢土が見える程度の浅植えにし、株元に軽く水をやる。植えたばかりの苗は、少しの風でもダメージを受けることがあるので、風よけや仮支柱を立てて誘引する。

5月

- 4 人工授粉** 第一花房（下から1段目の花房）に確実に実をつけさせるために人工授粉をする。第一花房に実がつかないと、その後の実つきが悪くなりがちになる。
- 5 支柱立て** 直立方式で支柱を立てる。
- 6 根起こし** 根は、通気性のある容器の壁面にそって張る。容器全体に根が回らないと、過湿状態になって根腐れを起こす。そこで、移植ごてを使って根起こしをして根を切ることにより、容器全体に張りめぐるようにする。なお、根起こし後には水やりをする。
- 7 誘引** 8の字形にひもで結わえ誘引。根、茎葉、果実のバランスを見て育てる。
- 8 摘芽** 摘芽は早いと草勢抑制、遅いと草勢促進となる。摘芽は指で折り取る。
- 9 病害虫の防除** 定期的に自然農薬を散布し、病害虫の予防に努める。



6月

- 10 追肥** 第三花房開花期は、第一花房果実の肥大最盛期なので、水やりを忘れず、肥切れをさせない。第一花房、第二花房、第三花房の肥大期と摘芯時の計4回追肥する。

定期的な水やりで肥料は流されやすいため、容器栽培の施肥では、「緩効性肥料+液肥」が基本である。

7月

11 摘果 一花房につき4個を目安に摘果をする。

12 摘芯 5段目の花房の上3葉残して摘芯する。

13 収穫 ガクの下まで着色したものを収穫する。なお、

収穫したトマトにカッターで傷をつけ、果汁の糖度を写真のような糖度計を使用して競わせるようにしている。



夏野菜の栽培（例2 トウモロコシとエダマメ）コンパニオンプランツ

マメ科のエダマメは、トウモロコシの生育を強く促す。しかもエダマメは日陰でも育つので、トウモロコシの間に植えることができ、スペースを無駄なく利用することができる。

4月下旬

1 トウモロコシとエダマメの種を同時にまく

気温が安定する4月下旬からが種まきの適期である。トウモロコシは、容器の中心に空き缶の底などで深さ3~4cmのまき穴をあけ、種を3粒まき、土をかける。

エダマメは、トウモロコシから離して、左右2ヶ所に同じく深さ2cmのまき穴をあけ、種を3粒まき、土をかける。どちらも手のひらで上から軽く押さえ、種と土が密着するようにし、十分に水やりを行う。種まき後は、発芽するまで、鳥の被害に注意が必要である。

5月

2 トウモロコシは1本に、エダマメは2本立ちにする。

トウモロコシは草丈が10~15cm、本葉1~2枚の時に最初の間引きをする。生育の良くない苗を1本引き抜き、その後はしばらく2本で育て、草丈が30cm、本葉4~5枚で1本立ちにする。この時、株元に化成肥料を施し、さらにその2週間後に同量を追肥する。株がぐらつく時は、必ず土寄せをする。

エダマメも元気の良い2本を残し、残りの1本はそれぞれ間引く。

3 2列で配置

トウモロコシを植えた容器は、花粉がよく付くように必ず2列で配置するが、株数が多いほど実つきもよくなる。これはトウモロコシが雌雄異花植物であって、受粉のタイミングが合わないと



実がつかないことが理由となっている。トウモロコシの雄穂から花粉が落ち始めた時、株を揺ると受粉が促される。

6月

4 追肥

追肥は収穫までに3回行う。1回目は間引いて1本立ちにした直後に、株元に化成肥料を一握り施す。2回目は種まきから1ヶ月たった時期に行い、3回目は穂が出てきた頃に行う。およそ種まきから2ヵ月後になる。施す量は1回目と同様である。

5 ヤングコーンを収穫し、エダマメを摘芯する。

トウモロコシは、1株から1つの実を収穫するため、一番大きい実だけ残し、それ以外は小さいうちに取り除く。小さい実は摘果してヤングコーン（ゆでてサラダなどに利用できる）にする。

エダマメは、1ヶ所2本立ちで育て、本葉が6枚程度になった頃に摘芯する。すると、脇芽が伸びて実つきも良くなる。



7月

6 トウモロコシは、実の先端の毛がこげ茶色に縮れたら収穫する。

エダマメは親指と人差し指でさやをつまんでみて、中から種が出てくるようになったら収穫適期である。なお、エダマメをトウモロコシの陰で育てると、日照時間が調節されて開花などのタイミングがうまく働き、収穫量が多くなることもある。



コンパニオンプランツにはこんな効果が期待できる

家庭菜園等の野菜づくりでは、できるだけ無農薬、減農薬で作りたいものだが、多かれ少なかれ病害虫は発生する。主な病気はウドンコ病、アブラムシが媒介するウィルス病、青枯れ病、ナス科野菜のエキ病、ウリ科野菜のツル枯れ病などである。害虫では、アブラムシ、アオムシ、ヨトウムシ、ハダニ、コナガなどである。しかし、異なる野菜を混植（一緒に植える）すると、互いの性質が影響し合って、病害虫が抑えられたり、野菜が元気に育つようになることがある。こうした相性のよい組み合わせがたくさんあることが知られていて（農薬がなかった時代からの伝統的な混植の知恵）、この関係はコンパニオンプランツ（共栄作物）と呼ばれている。

- 害虫を野菜から遠ざける
- 野菜を病気から守る
- 助け合ってよく育つ
- 日照を分け合ってよく育つ
- 肥料を分け合ってよく育つ
- スペースを有効利用できる
- 益虫が集まってくる
- 土壌がよくなる



栽培する野菜とコンパニオンプランツを混植するとき、それぞれの根が地中で同じ量の土を共有する。たとえば、病気を防ぐ拮抗菌も限られたスペースの中で集中的に、混植した野菜に働く。それだけ効率も良いことになる。つまり、狭い範囲の中で根圏微生物相が早く豊かになり、コンパニオンプランツ効果も早く、また強く現れる。

■混植する時に知っておきたい3つのポイント

異なる科の野菜を組み合わせるのが基本

基本的にコンパニオンプランツは、異なる種類の野菜の組み合わせである。同じ種類の野菜を混植することはしない。たとえば、同じナス科のトマト、ジャガイモ、ナスなど、同じ養分を必要とする組み合わせは相性が悪いので、隣り合わせで育てるのは避けた方がよい。

しかし、科が違っていても相性が悪い組み合わせがある。イチゴと相性が悪いのがキャベツである。イチゴはこのほか、ローズマリー、タイム、ミントとも相性が悪いため、そばに植えるのは避けた方がよい。コンパニオンプランツに多用されるネギの仲間も、相性の悪い相手がいる。ダイコンをネギ類のそばに植えると、ダイコンの根が枝分かれすることがある。ネギ類にはこのほかにも、エダマメ、インゲンなどのマメ類やレタスとの相性が悪いようである。また、トウモ

ロコシとトマトは背が高くなるもの同士で、日照を奪い合ってしまう。どちらかが日陰になると具合が悪いので、隣接して育てるのは避けるようにする。

植え付け時期が同じものを選ぶ

野菜には、それぞれに適したまき時期、植え付け時期があるので、コンパニオンプランツは同じ時期に育つ野菜同士の組み合わせにする必要がある。

邪魔し合わなければ組み合わせは自由

組み合わせの基本の考え方は、互いに邪魔し合わないことである。また、ネギの仲間（ネギ、ニラ、タマネギ、ラッキョウなど）は様々な野菜と組み合わせることができ、コンパニオンプランツとして最も良く利用され、相手の野菜を病害虫から守る。センチュウ対策に効果があるマリーゴールドもコンパニオンプランツの代表選手である。

- ① 背が高くなる野菜と背の低い野菜の組み合わせ（トウモロコシとカボチャ）
- ② 日当たりを好む野菜と半日陰を好む野菜の組み合わせ（キュウリとミツバ）
- ③ 根が深く伸びる野菜と根が浅く張る野菜の組み合わせ（エダマメとキュウリ）

■植え付け方のポイント

コンパニオンプランツの植え付け方は「混植」、つまり異なる野菜を近くに寄せて植えるということである。その際に、間隔を充分にとっておくことが必要である。近づけすぎると、生長するにつれて枝葉が混み合って、やがて邪魔し合うようになる。また、日光が葉に十分に届かなくなり、風通しも悪くなるので、病害虫の被害が出やすくなってしまふ。

根と根が絡むように植え付ける方法

ネギをコンパニオンプランツとして利用する時に、よく利用される植え付け方である。野菜の苗を植え付ける時に、ネギの苗を2～3本用意し、野菜の苗の根土に添えて一緒の穴に植え付ける方法である。育つにつれて、互いの根と根が絡み合い、ネギの根につく微生物の働きなどで、野菜の根を侵す病気を防ぐことができる。

野菜と野菜を交互に植え付ける方法

レタスとキャベツを混植する時に、よく行われる植え付け方である。レタスの苗とキャベツの苗を交互に植え付けると、キャベツにつく害虫（モンシロチョウやコナガ、アブラムシなど）が、レタスを嫌うので寄り付かず、キャベツの被害を減らすことができる。後で窮屈にならないように、株間を適切にあけて植えるようにする。

野菜の株元や周囲に植え付ける方法

トマトとマリーゴールド、トマトとバジルのコンパニオンプランツなどでよく利用される方法

である。マリーゴールドやバジルの苗を、トマトの苗の株元近くに囲むようにして植え付ける。なお、マリーゴールドがもっと育ったら、株分けして増やすことができる。

また、トマトの収穫が終わったら、マリーゴールドは引き抜いて枯らし、地上部を細かく切って土に混ぜると、センチュウを減らす効果が期待できる。

植え付け方、水やり、施肥の注意点

植え付けは、中心となる野菜1株につき、コンパニオンプランツは1～2株のバランスで栽培する。

水やりはコンパニオンプランツ栽培に限らず重要な点である。基本的には、土の表面が乾いたらたっぷり与える。夏の暑い時などには、1日に2回必要な場合もある。

組み合わせについては、同じ肥料成分だけを集中して要求しないようある程度配慮してある。混植しているからといって、肥料を2倍施す必要はない。しかし、生育状況を見ながら、元気がないケースでは、追肥を施すと効果的である。

野菜	科	相性	野菜	科	野菜	科	相性	野菜	科
トウモロコシ	イネ科	○	エダマメ	マメ科	ナス	ナス科	○	ネギ	ユリ科
トウモロコシ	イネ科	○	インゲン	マメ科	ナス	ナス科	○	ニラ	ユリ科
トウモロコシ	イネ科	○	ニンジン	セリ科	ナス	ナス科	○	ニンニク	ユリ科
トマト	ナス科	○	マリーゴールド	キク科	ナス	ナス科	○	エダマメ	マメ科
トマト	ナス科	○	バジル	シソ科	ダイコン	アブラナ科	○	マリーゴールド	キク科
トマト	ナス科	○	ニラ	ユリ科	ダイコン	アブラナ科	○	ミント	シソ科
トマト	ナス科	○	ネギ	ユリ科	ダイコン	アブラナ科	○	カモミール	キク科
ナス	ナス科	○	マリーゴールド	キク科	ダイコン	アブラナ科	×	ネギ	ユリ科
ナス	ナス科	○	ハウレンソウ	アカザ科	ダイコン	アブラナ科	×	ニラ	ユリ科
ナス	ナス科	○	バジル	シソ科	ジャガイモ	ナス科	○	マリーゴールド	キク科
ナス	ナス科	○	ラッキョウ	ユリ科	サツマイモ	ヒルガオ科	○	エダマメ	マメ科

授業で取り入れやすいコンパニオンプランツ 一例

冬野菜の栽培（例3 ダイコン）

種まき時期によって品種の選択、資材の選択が必要である。関東付近では「猷夏青首」は8月中旬～9月上旬まき、「冬自慢」は9月上～下旬まき、「冬しぐれ」は9月中～下旬まき、「天宝」は12～2月まきでトンネル・マルチ栽培とする。

ここでは、「冬自慢」という品種を使った。「冬自慢」の魅力は、何とんでも「作りやすさ」である。温度変化の影響を受けにくく、他の品種に比べて適期が長いので、安心して種まきができる。また、土質の種類や肥料の増減に左右されにくいので、失敗が少なく、立派なダイコンが収穫できる。そして、もう一つの魅力は「味のおいしさ・奥深さ」である。緻密でみずみずしい肉質に、ダイコン本来の豊かな風味。火の通りが早く、味がよくしみ込む、とてもおいしいダイコンである。

目 標

- 根長38cm、根径7cmに見合う重さ（1kg～1.2kg）のダイコンを作る。
- 形がまっすぐで肌がきれいなダイコンを作る。
- 糖度の高いダイコンを作る。



9月中旬

1 土づくり

トマトなどの夏野菜を引き抜いた後の容器内の土を1/3～1/2ほど取り、プラ舟に移す。移植ごてで残った土に苦土石灰・堆肥・配合肥料を適量混ぜて耕す。プラ舟から容器上部に1/3～1/2ほどの土を戻す。ダイコンは元肥が大切である。生育初期に細い主根をしっかり伸ばしてもらうためにも、元肥は必須。全体にすきこむように元肥を与える。

なお、容器栽培で使った土を太陽熱還元消毒する方法を紹介する。

- ① ゴミや残渣を取り除きながら、容器内の土をプラ舟に入れ替える。
- ② 水を加える。この時の土の湿り具合は、土を手で握ったとき固まり、指でつつくと崩れる程度にする。
- ③ 米ぬかと微生物資材（バイオエースなど）を土に混ぜ、攪拌する。
- ④ 土をビニール袋に詰めるか、プラ舟自体にビニールをかぶせて、周囲をひもで縛って密閉し2週間ほどねかせる。

2 ダイコンの種まき

容器の中心に空き缶の底などで深さ1cmのまき穴をあけ、5粒をそれぞれ離してまき、土をかける。

3 防虫ネットかけ

種まき後、白の寒冷紗をトンネル状にかけて、防虫対策をする。この防虫ネットは、太陽と水と空気はたっぷり通して害虫は通さないため、低農薬栽培が可能となる。



10月

4 間引き

1回目は双葉が展開したら、生育の良い苗（綺麗なハート形）を3本残し、軽く土寄せしておく。2回目は本葉が2～3枚になったら、生育の良い苗を2本残し、また軽く土寄せしておく。



5 追肥・土寄せ

種まきから3週間ほど経つと、肥料効果も薄れてくるので追肥を施す。と同時に、土を寄せておき、株の安定をはかる。

6 1本立ち

本葉が6～7枚（種まきから1ヶ月後）になったら、最後に間引きを行って1本立ちにする。その後、追肥を施し、土寄せして株を安定させる。



11月中旬

7 収穫

ダイコンは、葉が少し枯れて外側に開きはじめたら収穫適期である。両手で葉の根元を持って、一気に引き抜く。



ダイコン菜のふりかけ

ダイコンの葉は捨ててしまうのはもったいない。栄養満点なのに、スーパーや八百屋さんではなかなか手に入らない。ダイコンの葉には、ダイコン本体よりも多くの栄養がある。カロテンにビタミンC、ミネラル、食物繊維……。栄養素によっては、10倍もの差がある。



そこで、家庭科とのコラボでダイコンの葉を利用したメニューとして、「ダイコン菜のふりかけ」を紹介する。

材料 二人分

ダイコンの葉 1 本分、じゃこ20g、鰹節6g、醤油大匙2、みりん大匙1、ごま油大匙1

作り方

- ① ダイコンの葉・茎は洗って細かく刻む。
- ② ごま油を引いたフライパンに刻んだ葉・茎を入れ、しんなりするまで炒める。
- ③ ある程度しんなりしたらじゃこを入れ、さらに炒め、醤油、みりんで味付けをする。
- ④ 水気がなくなるまで炒めたら仕上げに鰹節を入れて混ぜ合わせて完成。

春咲き球根の栽培 (例4 アーリースマイルチューリップ)

目 標

- チューリップを可愛く綺麗に咲かせる。
- 生育期の極端な乾燥に気をつける。
- 花期と草丈をそろえる。



アーリースマイルチューリップ

12月	1月	2月	3月	4月	5月
	アイス チューリップ	アーリースマイル チューリップ		普通の チューリップ	

アーリースマイルチューリップは、あらかじめ低温処理した球根である。すぐに芽が動き出すので、球根を購入次第なるべく早く植え付ける。植え付け後、約3週間はじっくり根を張らせるために屋外で栽培し、その後は13℃前後の室内に入れると1月下旬頃より開花する。そのまま屋外で栽培すると2月下旬～3月頃に開花する。花もち抜群で、花を長く楽しめる特長を活かして、本校では卒業式に合わせて開花させるようにしている。

栽培ポイントは、発根時に低温を好むチューリップの特性を考慮し、植えつけ後、根が十分に伸びる一定期間は温度を上げ過ぎないことである（例えば発根適温8℃の場合、約3週間で根は10～15cmほどに伸びる）。したがって、この期間は部屋などで栽培する場合は室温の低い所を選んで管理する。さらに、根の伸長をスムーズにさせるため、水は切らさないようにすることも重要なポイントである。その後、日中の気温約15℃を目安に温度を上げることで、葉や花芽の生長が促される。

11月下旬

1 土づくり

ダイコンを引き抜いた後の容器内の土を1/3～1/2ほど取り、プラ舟に移す。移植ごてで残った土に苦土石灰・堆肥・配合肥料を適量混ぜて耕す。プラ舟から容器上部に1/3～1/2ほどの土を戻す。作業的にはダイコンづくりと同様である。



2 良い球根の見分け方

薄皮に艶があって、傷や病変が無く、重く締まった球根が良しとされている。不良球は薄皮が剥がれ落ちてしまい、表皮が乾き過ぎてシワが寄っている。また、大きな傷からは樹液が出て固着し、病変部は凹んだり変色している。

3 球根の植え付け

球根の3倍の深さの穴を作って、球根を入れて、球根の高さの2倍の土を被せる。浅く植えずぎると根が下に伸びていく力で球根が持ち上がり、地上に出てしまうことがあるので注意する。チューリップの美しさを発揮させるには、密植ぎみのほうがよく、いっせいに咲いた時にかなりゴージャスに見える。



12月以降

4 水やり

植え付けてから芽が出るまでは結構時間がかかる。しかし土の中では根が張りめぐらされているので、土を乾かし過ぎないように水やりを行う。乾燥に弱いので冬でも土が乾いていたらたっぷりと水を与えるようにする。植えてから芽が出るまでしばらく時間がかかるが、土の下では根が生長しているので、水やりを欠かさないようにする。



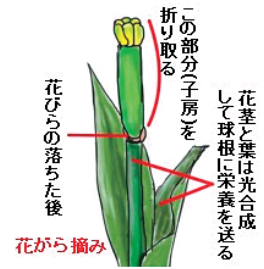
5 施肥

芽が出てきたら液体肥料を10日に1回くらい与えるようにする。開花後はカリ分の多い液肥を2～3回与えると効果的である。球根の中には、開花に必要な栄養がため込まれているので、開花期の肥料は特に必要ない。花が咲き終わった後、球根に栄養を蓄えさせるために、数回追肥を行う。しかし、一年目よりも良い花は咲かないので、毎年新しい球根を求めた方が賢明である。



6 花がら摘み

花びらが散ったら花の部分（子房）を折り取る。子房はそのまま付けておくとタネができ、余分な栄養が取られてしまう。葉と花茎は球根に栄養を貯えるためにとっても大切な部分なので、自然に枯れてくるまで決して切り落とさないように気をつける。



7 花後の処理

花が終わり6月頃に葉が黄色く枯れてきたら、掘りあげて陰干しして表面の土を落とし、球根が分かれているものは一つずつ丁寧に分ける。大きいものから小さいものまでたくさんの球根ができています。親球と同じくらいの大さに達しているものなら来年にも花が咲く可能性が大きいですが、小さいものなら花が咲くまで数年かかる。目の粗いネットなどに入れて、風通しのよい雨の当たらない日陰に貯蔵する。

【参考文献】

- 『野菜のバスケット栽培 - タネから育てる63種 -』 増田繁
発行所 社団法人 農山漁村文化協会
- 『コンパニオンプランツで無農薬の野菜づくり』 横倉敏夫
発行所 株式会社学習研究社
- 『コンパニオンプランツで野菜づくり』 木嶋利男
発行所 株式会社主婦と生活社

農業高校の地域と連携した花のまちづくり活動

公益財団法人全国学校農場協会 常務理事

千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭 風間 龍夫

1 はじめに

全国の農業高校は約380校あり、農業高校としての特性を活かし、さまざまな地域活動に取り組んでいる。その中でも、花のまちづくり活動、花いっぱい運動は多くの学校が取り組み、農場協会の例年の調査では3割程度の学校が行っていると回答し、近年ではまだ少数であるが花育にも積極的に取り組む学校もある。農業高校における花のまちづくり活動は、活動形態はさまざまであるが、学校で育てた花壇苗をプランター等に植えて近隣の商店街、駅、市役所、病院、小中学校等に飾ったり、地域の花壇植えをおこなっていることが多いようである。今年度はこれらの中で地域団体や小中学校等と連携して実践している花や緑を用いた植栽活動を、全国の活動事例として紹介し、さらに地域と連携した活動の意義・問題点・方向性等についても考察したい。

(注 農業高校は、農業に関する科目を学習する学校の総称で、農業単独校、普通科等の他学科との併置校、総合学科校等からなり農業関係高校ともいう。)

2 北海道新十津川農業高等学校(樺戸郡新十津川町)の事例

「植栽活動による専門性の向上と学校PR」

記載 丹 倫光

活動の概要

新十津川町は、北海道の空知地方中部にある米どころの町で、町内には小・中・高が1校ずつ設置されています。本校は農業・生活科1間口(クラス)の農業高校で、農業と生活の2類型により資格取得学習の推進と充実を図り、農業を通して豊かな人間性の育成を目指しています。

本校は町立の高校ではありませんが、町内外の花壇苗の予約を受け生産・販売しているだけでなく、花壇植栽をはじめとする地域行事への全校ボランティア活動によって、町になくてはならない学校として高い評価を受けています。

また、北海道新聞社主催の花フェスタ札幌で行われる、『北海道農業高校生ガーデニングコンテスト』では、生徒が農業学習で身に付けた知識や技術を作品として表現し、昨年度から2年連続入賞するなど、本校の活躍が広く認知されています。

植栽ボランティア活動

① 概要

本校は、毎年町内の植栽ボランティア活動を全学年で実施しています。高校周辺の花壇には各学年の授業で宿根草とマリーゴールド、小・中学校の通学路には町内会・町教委を中心とした「美しい通学路をつくる会」と一緒にサルビアとマリーゴールド、新十津川駅から空知中央病院前の花壇は、病院の職員の方々と一緒にサルビアとペチュニアを合わせて約10,000本植えました。また、隣町の滝川市では、中央商店街からの依頼を受け国道12号線沿いの大型ベンチに商店

街の方々とベゴニアとマリーゴールドを約4,000本植えています。



② 成果

地域住民の方々と作業をしながら会話を通じて交流することは、生徒の科学性や社会性を向上させる効果があります。男女をはじめ、小学生から老人まで様々な異世代交流の中で「どうやれば花がたくさん咲くの?」、「肥料はどうやって与えるといいの?」等の質問に、適切な言葉で相手に伝わる説明をしなければなりません。学習内容の理解や反復が必要であるだけでなく、自分の発言に責任が生まれることから実に勇気のいる行動となりますので、通常の授業よりも真剣さが増し、高い学習効果が期待できます。

③ 課題

ボランティア活動を終えると、学校生活に追われて管理作業は地域の方に任せきりになってしまいがちです。活動が断片的で総括まで至らない部分があったり、様々な苦悩を抱えている学校も多数あるかと思いますが、マニュアル化が困難であることから、目的を明確にし活動を焦点化していく必要があると思います。

花フェスタ札幌への出展

① 概要

毎年6月下旬に、札幌市大通公園にて花フェスタ札幌が開催されています。参加校は、農業の専門学習で身に付けた、ガーデニングの計画・設計・栽培についての知識や技術を用いて、規定のスペースに自校で栽培した鉢花・花卉を使って、創意工夫を凝らしたガーデニング作品を製作・展示しています。本校は草花の科目を履修する2学年農業コースの生徒が毎年担当しています。



② 成果

入賞を重ねる毎に、「大賞常連校に勝ちたい。」という意欲が生徒に芽生え、「一年草が多いから宿根草で差別化しよう。」とか「雑貨を増やしてストーリー性のあるデザインにしよう。」といったように、作品の問題点や改善点を生徒自らが見つけ、具体的にどのように対応するかを考える力が身に付くようになりました。

③ 課題

農業の専門学習の中で、展示や表現といった学習の機会が少ない現状にあります。出展にあたり、デザインだけでなく栽培方法や開花時期の調整等の計画・設計を生徒自らが考え、作品を具現化することは極めて困難であることから、学年間の引き継ぎを円滑に行い、継続性や連帯感のある作品製作のために、教員による適切なバックアップが必要です。

まとめ

自分達が育てた花が通学路やイベントを飾り、様々な方面から評価されたり、新聞等で報道されることで農業高校の学習成果が広く認知されています。これらの実践によって、農業の専門学習で得られた知識や技術を生徒自身が再認識するきっかけとなり、充実感や達成感を得ることにつながる効果があるのではないかと思います。

3 青森県立弘前実業高等学校(弘前市)の事例

「花で地域を元気に！」

記載者 教諭 鳴海 純

活動の概要

本校は、農業経営科の他に、商業科・情報処理科・家庭科学科・服飾デザイン科・スポーツ科学科の6学科がある大規模総合専門高校で、学科の特徴を活かした学習はもちろん、26の運動部・文化部が熱心に活動している。6学科中農業経営科のみ農業の学科であるため、単独の活動が難しい。そこで数年前から、授業および農業クラブ活動の一環として、花で元気プロジェクトおよび花文字花壇を展開している。

①花で元気プロジェクト

a. 高速道路インターチェンジの花装飾

授業で活用する農場が狭く校外で活動する場を模索していたところ、高速道路のインターチェンジが殺風景だとの意見があった。授業で作成した花プランターを飾ることをNEXCO東日本東北支社青森事業所に提案し、十和田事業所とも連携して学校近隣の3ヵ所に計100個配置した。農業クラブ役員が休日を利用し、定期的にメンテナンスしている。



b. 小・中学生への花壇植え指導

平成23～25年度「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」の一環として、連携し

て活動する碓ヶ関小・中学校の花壇整備を本校生徒が指導する機会を得た。当日は農業クラブ役員および草花専攻生が、約2,500本の各種花壇苗を、植え幅がわかるように結び目をつけたビニル紐を活用し、笑顔で植え方を指導する様子が見られた。



②花文字花壇制作

数年前より草花を専攻する3年生にデザイン画を募り、花壇植え実習の一環として制作している。今年度は「HiroJitsu」（弘実）をロゴ風にデザインし、マリーゴールドおよび白妙菊を約200本で文字を配置した。10月の文化祭が終わるまで定期的に管理した。今後は地域の花壇でも実施できるよう、呼びかけていきたい。

活動の効果と課題

校内での活動以上の笑顔や照れ、試行錯誤する真剣な姿は、人とコミュニケーションを取りながら実施してこそ見られる姿で、参加した生徒の満足度は高い。また、自分で考えることを経験することで学習面での主体性が向上し、校外活動はよい学習機会となっている。

地域と取り組む活動を増やしたい反面、活発な運動部・文化部活動と時間が重なるため放課後の人員確保が難しいこと、交通手段の確保が難しいことなどが課題として挙げられている。

4 宮城県南郷高等学校(遠田郡美里町)の事例

「フラワー・サービス・プロジェクト」活動

記載 松野 和史

活動の概要

南郷高校は普通科、産業技術科の2学科各1クラスの学校で、164名の生徒が学ぶ小規模校です。産業技術科草花班の実習は生徒が種を一粒ずつ手で播くことから始まり販売に至るまで、一連の管理に関わる知識と技術を学習しています。本校で生産している草花苗はとても人気があり、生産された花のほとんどは地域の小・中学校や老人クラブなどの花壇で利用されています。また、農業クラブ員が行うボランティア活動で、地域の花壇に植栽されてきました。

しかし、最終的に余剰となった花苗は廃棄され、その利用が大きな課題となっていました。「余剰苗を地域のためにもっと活用できないか？」この提案から「フラワー・サービス・プロジェクト」という活動が誕生しました。

フラワー・サービス・プロジェクトは、「花によって潤いのあるふるさと作り」を目標に、以下の3つのテーマで活動を行っています。

南郷高校フラワー・サービス・プロジェクト

活動① 地域の花壇作り支援

これまで生産物販売を行ってきた中で、地域の方から「もっと花を植えたいが予算が足りない」「花の種類がわからない」「花の育て方がわからない」という多くの声を耳にしました。これらの問題を解決するために、南郷高校の花苗を購入いただいたお客様には少量ですが花苗の寄贈を行いました。花壇用にまとまった数を購入されたお客様には苗の特性や花壇の作り方などをまとめたマニュアルと共に、数種類の中から花苗100個を選んで差し上げています。本校の苗は緩効性肥料がしっかりと配合されているのでお客様からは花壇で長く楽しめると好評です。

活動② 花を通じた地域との交流

「美里町南郷地区の学校花壇を南郷高校の花で飾ろう」という生徒の提案から活動が開始されました。最初の頃は放課後生徒が出向き、植栽してくるという活動でしたが、平成26年から小学生、中学生との交流会が実現しました。花壇作りや寄せ植え教室を生徒が講師となって行っています。「自分が卒業した母校や仮設住宅で、この活動を行いたい」という生徒達からの強い要望があり、さらに活動が発展しました。今年は幼稚園、小学校、中学校や仮設住宅と多くの場所で活動を展開することができました。



南郷中学校寄せ植え教室



南郷小学校花壇植栽

活動③ 花のある環境作り

「花によって潤いのあるふるさと作り」という目標で、美里町内の官公庁、駅や商店など人が集まるところ約50か所にプランターを設置しました。また、継続して行っている町内数カ所の花壇植栽も行いました。活動を発展させるため、町内の空いている花壇について役場に問い合わせたところ、老人クラブで高齢化がすすみ管理ができなくなった花壇が多く存在することがわかりました。そのような場所を南郷高校が譲り受け、荒れて雑草だらけになった花壇を蘇らせることができました。



合同庁舎花壇植栽



老人クラブの花壇植栽

フラワー・サービス・プロジェクトの効果と今後の活動

この活動を通して、地域の方々に「南郷高校でこんな花を作っていたんだ」「南郷高校の花は長持ちしていいね」などの声をかけていただけるようになりました。また、町の緑化事業において学校で生産した花苗を利用していただけることになり、町内のほとんどの花壇は本校の花によって彩られています。

この活動によって思いがけない効果もありました。これまで植栽した花壇は、本校が管理を行わないと雑草に埋もれるような状態になっていましたが、地域の方々との交流やPR活動を積極的に行ってきた結果、地域の方々に水やりや草抜きなどの管理を行う姿が見られるようになりました。設置したプランターの花も枯らさないで、しっかりと管理していただける場所が多くなりました。

活動中は地域の方々から「いつもありがとう」という温かい言葉や、多くのコミュニケーションが交わされるようになりました。花によって交流が生まれ、交流することで人は元気になる。地域での絆が強くなることを実感しました。花の持つ力、ボランティア活動の効果に私達、教員も気づかされました。

現在、地域の若手農業後継者との交流会で、フラワーアレンジメントやポプリ作りを学んでいます。今後は夏休みや冬休みを利用して、小中学生向けにフラワーアレンジメント教室などを開催していきたいと考えています。

私達は、「花によって潤いのあるふるさと作り」を目標にこれからも地域とともに活動していきます。

5 岐阜県立飛騨高山高等学校山田校舎(高山市)の事例

「地域に広げよう花の魅力を」

記載 島田 正幸

はじめに

本校は、岐阜県の北部、日本で一番面積が大きい高山市にあり、東に乗鞍、穂高の北アルプスを眺め、西に白山を望む高山盆地にあり、緑豊かなところです。観光スポットとして全国的にも有名な古い町並みや高山祭りがあります。この地域で私たちは、従来から「地域に開かれた学校」を目指し様々な取り組みをしています。

今から13年前、園芸福祉という言葉が注目され始めた頃、私たちの学校では従来から行っていた活動が、まさしくその園芸福祉活動そのものであると知り、より一層その活動に力を入れました。「草花を用い老若男女を問わず、すべての人たちが交流を通して幸せな気持ちになろう！」というテーマをもちスタートしました。最初は、地域の園芸福祉サポーターと連携し、介護老人施設の方々と、花を用いた種まきから花壇作りまでの継続的な交流を行いました。また、観光スポットである古い町並み（上三之町）での朝顔を用いた交流を行い、今ではこの朝顔が古い町並みの景観保存地域の夏の風物詩となりました。

活動内容

本校では、地域の方々との心の触れ合いや、花の魅力を伝えるため、継続的な交流を進めるとともに、園児や小学生などと小さい頃から花と触れ合える交流を進めています。また、高山市役所の高山市民憲章推進協議会から「花作りを一般市民の方々に教える講習会などできないか」という依頼もあり、「地域に花の魅力を広げるため」のよい機会だと思い取り組んでいます。本校の取り組みを、3つ紹介します。

① 地域との継続交流

1) 介護老人施設との交流

花を用いた継続交流を考え、種まき→ポット上げ→花壇作り→花の葉作り→花もち作りなど年間5回の交流を企画立案し実施しました。花による心のケアや、昔を思い出す回想など心のいやし、リフレッシュなど心身的な効果もあり、介護士さんからは「ここへ来るといつもと違って、みんな良い笑顔をしてる」「いつもこの交流を楽しみにしてみえる」と、うれしい言葉も聞かれ、交流の必要性を感じました。



老人ホームとの交流

2) 幼稚園との交流

学校の近くにある幼稚園では、毎年園内の花壇に植え付ける花苗を、本校から購入してみえます。そこで、私たちが幼稚園に出向き、園児たちと一緒に花壇を作ることが出来ないか考えました。幼稚園に連絡したところ、ぜひ一緒にやってほしいという返事をいただき、花壇作

りの交流をすることになりました。園児たちと一緒に土に触れ、花に触れ、花壇が仕上がると園児からは「花ってきれいだね」「花植え楽しかったよ」「おねえさんと一緒に花植えしたよ、ありがとう」など、目を輝かせながらニコニコして話す姿が印象的でした。何か園児の心の中にも花の不思議な力を感じることができました。



園児との交流

3) 小学校との交流

地元小学校から、寄せ植え作りを教えてほしいという話がありました。小学校ではその寄せ植えを、地域でお世話になった方々に「お礼の意味を込めて」贈るということでした。それなら1回だけ交流して寄せ植えを作るよりも、さらにその寄せ植えに、本校生徒と小学生の思いを込めた寄せ植えにしたいと考えました。そこで今まで進めていた継続交流を参考に、たねまきから寄せ植え作りの一連の作業を取り入れ、自分たちで育てた苗で寄せ植えを作る交流を行いました。この交流で作った寄せ植えには、みんなの気持ちが入っており、花に込めた気持ちが贈られた側にも伝わる交流となりました。その後、小学生からの手紙には「おねえさんと作った寄せ植えを、図書館に持って行ったらすごく喜んでもらえて、逆に私もうれしかった」など、花を通して地域に心の繋がりができている事を感じることができました。



小学校との交流



花作り講習会

② 地域との花作り運動

1) 花作り講習会

本校に、高山市役所の高山市民憲章推進協議会（花いっぱい事業）より一般市民の方へ花作りを教えるような講習会を開けないか依頼があり、高山市役所の方と検討する中で、生徒自らが講習会の講師として花作りを教えるという形で、講習会が実現しました。一般市民への花作り講習会では、気軽に花作りを楽しんでもらったり、通常家庭ゴミとなるペットボトルを利用した花植

えなど、花の魅力をもっと理解してもらい、家庭に気軽な花作りを広めています。また、花作りの楽しさ、自宅でもできる寄せ植え・花壇作りの指導も行いました。

2) 古い町並み（上三之町）での朝顔を用いた交流

高山市役所の高山市民憲章推進協議会（花いっぱい事業）より依頼を受け、毎年朝顔苗の配布を継続しています。古い町並みの方からは、「毎年、きれいなブルーの花を咲かせ、この町並みにも合っており、夏の風物詩となっています。観光客もその風情を楽しんでいけます」と言われ、地域との繋がりを感ずることができました。



朝顔苗の贈呈

③ 地域で花イベント開催

さらに地域の多くの方々に、もっと花を知ってもらおうと、学校でのイベント販売や地域でのイベント参加を進めています。

1) 学校でのイベント販売

花の魅力を、さらに伝えるため校内で栽培した草花を、季節に応じて一般市民に販売するイベント（市）を行っています。4月には母の日への贈り物としてカーネーション市、月には夏の風物詩として生徒が浴衣を着て、一般市民に販売を行う朝顔市、11月には冬の風物詩としてシクラメン市、2月には早春の花としてサイネリア市を開催しています。販売するときには、栽培管理マニュアルと一緒に配布し、家庭でも長く花を飾ってもらえるように取り組んでいます。



朝顔市



J A ひだ農業まつり

2) 地域でのイベント販売

学校だけでなく地域で行われるイベントにも積極的に参加し、そこでも花の魅力を伝える活動をしています。

地元の生産者などが集まる「JAひだ農業まつり」への参加。このイベントでは、あらゆる年齢層の方々が見えるため、花の販売だけでなく、花を使った交流を考え、誰にでも簡単に作れる自分オリジナルのプチアレンジメントの体験コーナーを作りました。イベント当日は、本校生徒が丹精込めて栽培した花を販売するとともに、プチアレンジメントの体験交流も行いました。プチアレンジメントは大変盛況で、子供、親子、お年寄りなど様々な年齢の方々と交流することができました。花で何かを作るときの皆さんの笑顔、真剣なまなざしなど、生徒自身その花の不思議な魅力を感じることができました。また、販売を通して心の通った交流を行う事ができました。

まとめ

さまざまな交流を通して、地域の方々に花と触れ合う時間を持っていただき、花の不思議な力、花の魅力、花にこめた気持ちが伝わる交流ができました。

①花を育てる交流

地域の方々を対象とした花作り講習会や、園児・小学生を対象とした花育を進めることができました。

②人と人を繋ぐ交流

園児、小学生、中学生、一般市民、お年寄りなど、いろんな世代の方々と地域のイベントで交流することにより、人と人の心がつながる交流ができました。

③気持ちを伝える交流

自分たちが育てた苗を使っての寄せ植え作りでは、生徒と小学生の気持ちの込められた寄せ植えを地域の方々に贈ることにより、花に込めた気持ちが贈られた側にも伝わる交流となり、地域の方々とより一層の繋がりを感じることができました。

本校では、地域の方々との心のふれあいや花の魅力を伝えるため、小さい頃から花とふれあえるようにと、幼稚園や小学校との継続交流を行っています。また高山市役所からの依頼を受け、花作り講習会を開催したり、校内でのイベント販売や、地域でのイベントへの参加するなど、高校生だから出来ることを工夫し、花の魅力を多くの方々に広げる事ができました。

今後も、生徒が中心となり講習会や即売会（市）、花育活動など継続的に行い、色々な場面で花の魅力を伝えることにより、さらに地域の活性化に貢献したいと考えています。

6 和歌山県立紀北農芸高等学校(伊都郡かつらぎ町)の事例

「地域に親しまれるフラワーロード活動」

記載 上田 治雄

活動の概要

本校は和歌山県の伊都郡かつらぎ町に位置し、周辺は果樹栽培が盛んで、近くには世界遺産の高野山がある。和歌山県で唯一の単独農業高校であり、平成28年度に創立30周年を迎える。生産流通科、施設園芸科、環境工学科（機械コース、土木コース）の3科があり、生徒数265名の小規模校である。

フラワーロード活動は、平成22年度7月から園芸部・農業クラブ・生徒会の役員及び部員と有

志の生徒が、地域共育コミュニティの一環として取り組んでいる。

活動母体及び場所

学校通学路沿いの地域住民（約15名）を対象に本校作物実習室で実施している。又、町内の消防署、病院、保育所、公民館、警察署に対象プランターの配布や花壇の植え付けを実施している。

活動方法

- ・園芸部を中心に農業クラブ・生徒会の生徒が秋まき・春まき1年草の選定と、育苗及びその後の栽培管理を実践する。



播種作業



鉢上げ作業

- ・地域住民及び保育所、公民館には年2回、生徒が植栽方法や管理方法を説明しながら共にプランター（1戸当たり3プランター）に植え付け、持ち帰った後、通学路沿い庭先に配置していただき日常管理をおこなってもらう。



住民の方々との植え付け作業



警察署での定植作業

- ・消防署、病院等には生徒が草花苗を定植したプランターを配布し、警察署では玄関前の花壇に草花苗の定植をおこなっている。

期待する効果

- ・本校生徒が栽培し、地域の方々と植栽したプランター通学路に並ぶことで、自分たちの通学路であるという自覚と美化に対する意識を高める。
- ・生徒が地域の方々との共同作業をとおして、地域理解を深め、かつコミュニケーションの機会を増やすことで、生徒自身のコミュニケーション能力を高める。
- ・地域の方々が、直接生徒と関わることによって生徒理解や学校理解を深め、地域の学校としての意識高揚につなげる。
- ・最寄り駅から学校までの通学路にプランターが並ぶことにより、学校への導線が生まれ、学校への道しるべとなる。

(5) 活動の注意点

- ・生徒には、地域住民との植え付け時に、教科や実習等で学習した内容をもとにコミュニケーションをとるよう促している。
- ・草花選定にあたっては、住民アンケートを参考に草花を選ぶ楽しみや、栽培管理の難易度及び色のバリエーション等も考慮している。

今後の課題

・花壇苗の栽培管理場所

草花生産部門の施設を借りて栽培をおこなっているため、播種時期や最盛期には管理場所が不足する。

・種子・資材等の予算

当初はエコスクールによる活動資金を充当したが、現在は園芸部の活動費で運営している。しかし、資材の老朽化、草花の種類・栽培量、住民の要望等で予算内での運営が難しくなってきた。

・灌水と栽培管理（特に春植え草花の夏越し）

管理は住民の方々や各施設に依頼しているが、設置場所や管理者により、管理方法が違うことが原因で生育不良となるプランターもあるため、秋植えの草花定植時期までに枯死している場合がある。

(参考資料) 栽培する草花の品種 (年により品種数は変更)

春まき草花	品種数	秋まき草花	品種数
マリーゴールド	4	パンジー	10
サルビア	4	ビオラ	6
ジニア	2	デージー	2
トレニア	3	クリサンセマム	1
ペチュニア	2	アリッサム	1
ニチニチソウ	2	テルスター	2
アゲラタム	1	ネモフィラ	1
バコパ	1	ワスレナグサ	1
コリウス	1		
ヒポエステス	4		

7 活動の意義と問題点、今後の方向性について

農業高校の花のまちづくり活動、花いっぱい運動は、農業高校の持つ特性、機能を活かし、自らの手で地域を花で飾る活動を行っている学校が一般的だが、今回の事例のように地域団体や幼少中学校等と連携しながら活動している学校も多い。以下、私が平成23年度まで千葉県立上総高等学校に在職して取り組んだ経験を踏まえ考察してみたい。

地域コミュニティづくりに寄与

千葉県立上総高等学校農業クラブは平成20年度第19回「みどりの愛護のつどい」功労者国土交通大臣賞を受賞したが、次のように紹介されている。（下線は筆者による）

当クラブは「花と緑でうるおいのある街づくり」を目的に、農業クラブの活動として花いっぱい運動、緑化活動に取り組んでいます。平成8年度に君津市市役所を鉢花で飾ったことをきっかけに、今では、君津・木更津地域において、生徒の手により育てた花をプランターに植え、季節をとおして多くの公共施設や地元商店街などを彩っています。

また、多くの箇所では花壇作りも行い、市民団体や小中学校など、各種団体との連携を深め、地域住民参加型の活動を進めています。

活動を始めて10年以上が経過して、今では地域一体となった活動に発展し、緑を介した地域のコミュニケーションの醸成を図り、地域づくり、街づくりに貢献しています。

また、平成18年度第26回「緑の都市賞」都市緑化基金会長賞受賞では、次のように講評されている。

花と緑あふれる街づくりを通して、人々にゆとりと安らぎを与えるとともに、幅広い地域の人たちと交流することにより地域コミュニティの活性化を図ることに寄与している。



木更津駅前花壇



君津市公民館前花壇

このように農業高校の地域団体や小中学校等と連携して実践している花や緑を用いた植栽活動

は、地域で高く評価され、地域にとっては無くてはならない存在となっている。子ども、地域住民、市民団体など幅広い地域の人たちと交流する中で、花を介して地域、学校、人がつながり地域コミュニティづくりに寄与している。

農業高校生に対する学習効果

全国の事例にみられる活動の特徴は、農業高校生の自主的な活動として、生徒がアイデアを出し合い工夫しながら取り組み、学習したことをもとに地域に働きかけ、地域と交流し、そのことによって地域から学ぶという循環の中で学習している。学んだ知識や技術を確かなものとしながら、人とのふれあいをおして共に生きることを学び、社会性や問題解決能力が養われるなど大きな成果も得られている。学習したことが人のためになるということで、体験的学習の新しい取り組みであり、地域に認められ、評価され、生徒の学習意欲の向上に大変効果的である。

地域と連携した活動の問題点と方向性

私は長年花いっぱい運動に携わり、多くの地域団体と共に活動してきたが、地域団体の成熟度によって問題点は異なってくる。管理方法の違いによって、2か月ほどもすれば雑草に花が埋もれてしまう所がある一方で、反対に、適切な管理をして数か月きれいに咲かせ続ける所もある。えてして前者の例になりがちで、その後の管理も農業高校が行うとなると農業高校側の負担が多くなる。

花壇作りの一番のポイントは、花壇植え付けよりも、その後の継続的な管理であって、花をきれいに長く楽しむには、除草、花がら取り、切り戻し、水やり等の地道な作業が必要である。「花壇とは美しくしようとする人の手が加わってこそ、美しい花壇になる」ということである。



農業高校からすれば、花壇の植え付けは地域団体と一緒にいっても、その後の管理は、地域団体の側をお願いしたいことである。農業高校の活動には限界があり技術的な支援は行っても、管理は主に地域団体がやるべきで、その方が活動が長く維持されると思う。ぜひ、地域団体には継続的な管理ができる体制作りをお願いしたい。農業高校には地域から「花を飾ってほしい。花壇を作ってほしい」という要望がよくあるが、「花を植えてからの管理ができますか」と問い返すようにしている。地域団体の方々には継続的な管理をして「育てる楽しみ」を味わってほしいと

思う次第である。（注 花壇植え付け後の栽培管理については平成27年度花育読本「花をきれいに長く楽しむ栽培管理」を参照）



今回、全国の農業高校の地域と連携した花のまちづくり活動の事例を紹介したが、活動内容はどれも「花づくりは まちづくり 人づくり」に尽きると思う。活動をとおして地域と学校がつながり、子ども、地域住民、お年寄りと人がつながっていく。地域の人々が交流し作業をする中で、花を愛で楽しみ、自然と心に安らぎとゆとりが生まれ、互いの語りもあり心が一つになっていく。こうした農業高校の地域と連携した花のまちづくり活動が全国で取り組まれていることは素晴らしいことだと思う。

「花育活動図鑑」参考データ一覧

参考データは、「花育」ウェブサイトからダウンロードしてご使用ください。

<http://www.hanaiku.gr.jp>

花育資料集

- 基本的な花と緑の知識「花づくり 土づくり」
- 花ごよみ366「花ことば・誕生花」
- 季節の行事と花
- 漢字で見る植物の名前
- 全国の植物園一覧
- 生活と花と緑のQ&A
- 植物に関するQ&A

花育アドバイザー

- 花育アドバイザー登録制度実施要領

平成26年度 農林水産省 産地活性化総合対策事業
国産花きイノベーション推進事業（花育活動全国推進事業）

「花育実践者向けマニュアル」

発行日：平成27年3月 発行

編集・発行：全国花育活動推進協議会

連絡先：〒103-0004

東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

一般財団法人日本花普及センター内

電話：03-3664-8739 FAX：03-3664-8743

E-mail：jfdc@jfdc.or.jp



育てる楽しさ、
花咲くよるこび。

<http://www.hanaiku.gr.jp>